授業科目名	発達心理学	単位認定者	榎本光邦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義･演習（講義内にて）･事例検討	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	人間の成長発達を理解する基礎として，各発達段階における知的，心理的，社会的発達，人格の発達を理解することを目的とする．		
学習到達目標	各発達段階の知覚，感情と情動の発達，認知の発達，パーソナリティと自我形成，行動の発達的変化について習得する．		
関連科目	教養科目：心理学 専門基礎科目（臨床科目）：臨床心理学 専門基礎科目（地域科目）：カウンセリング 専門科目：小児看護学概論，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学Ⅲ，母性看護学総論，精神看護学概論，精神看護学Ⅰ，地域看護学概論，地域看護学Ⅰ		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20%）を加味して評価する．		
準備学習の内容	前回の講義時に指示をする．		

回	講義題目	講義内容
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題，社会的発達について
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴，性に関する問題
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴,特に自己概念形成（自分探し）に焦点を当てて考察する
9	青年期の精神障害（1）	対人恐怖・社会恐怖等
10	青年期の精神障害（2）	摂食障害・スチューデントアパシー等
11	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など
12	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的変化の特徴，家族との関わり，仕事との関わりの変化について
13	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化，死のとらえ方等
14	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する
15	まとめ	これまでの講義の総括

教科書	「ナースのための心理学３　パーソナリティ発達論」　岡堂哲雄編　（金子書房）
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	藤田　清貴
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	生体内防御反応機構などの免疫のシステムの基礎知識，および免疫異常による疾患の特徴などを学ぶ。さらに，感染症の基礎知識，特徴，感染経路，臨床的経過などについても学ぶ。		
学習到達目標	1. 自然免疫，獲得免疫について説明できる。 2. 免疫グロブリンの種類と特徴，および免疫応答について説明できる。 3. 感染症の特徴および院内感染について説明できる。 4. 細菌感染症，および性感染症について説明できる。 5. ウイルス感染症について説明できる。 6. 肝炎ウイルスの種類と特徴について説明できる。 7. 免疫不全症の種類と特徴，および HIV 感染症について説明できる。 8. 自己免疫疾患と自己抗体との関連性について説明できる。 9. アレルギーの種類と特徴について説明できる。		
関連科目	疾病の成り立ち，臨床検査学，疫学・保健統計		
成績評価方法・基準	演習への取り組み 20%，定期試験 80%により成績を評価する。採点の基準は 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。また，授業回数の 3 分の 1 以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。試験形態は筆記試験とする。		
準備学習の内容	各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	免疫の概念	自己と非自己の識別，免疫に関与する細胞，組織，器官
2	免疫システム概論	自然免疫，獲得免疫
3	抗原	抗原の定義，分類，抗原性を発揮するための条件
4	抗体の構造と働き（1）	免疫グロブリンの構造，分類，特徴
5	抗体の構造と働き（2）	免疫グロブリンの多様性と抗原マーカー，一次免疫応答，二次免疫応答
6	補体の働き	補体の定義，成分，活性化経路，臨床的意義
7	感染症（1）	感染症総論，検査，治療，予防，院内感染，感染症の現状
8	感染症（2）	細菌感染症，細菌の構造，抗菌薬，グラム陽性，陰性菌，
9	感染症（3）	性感染症，梅毒，クラミジア感染症，マイコプラズマ感染症
10	感染症（4）	ウイルス感染症，インフルエンザ，ヘルペスウイルス感染症
11	肝炎ウイルス	A 型，B 型，C 型，D 型，E 型肝炎ウイルスの特徴，診断，臨床的経過
12	HIV 感染症／AIDS	HIV 感染症と AIDS，HIV の感染経路，診断，臨床的経過
13	免疫異常-免疫不全症	B 細胞不全症，T 細胞不全症，複合型不全症の分類と特徴
14	免疫異常-自己免疫による疾病	自己免疫疾患の定義，分類，自己抗体と臨床的意義
15	免疫異常-アレルギー	Ⅰ型，Ⅱ型，Ⅲ型，Ⅳ型，Ⅴ型アレルギーの発生機序，特徴

教科書	中島　泉，他：　臨床検査学講座　「シンプル免疫学」　（南江堂） 「病気がみえる⑥　免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア）
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。

授業科目名	薬理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科目の目的	医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。 1. 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。 2. 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。 3. 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。 4. 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。		
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。		
関連科目	生理学　生化学　疾病の成り立ち　小児看護学Ⅰ　母性看護学Ⅰ　老年看護学Ⅰ		
成績評価方法・基準	試験（100%）		
準備学習の内容	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。		

回	講義題目	講義内容
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識．薬物治療に影響を与える因子． 投与経路と薬の吸収．分布，代謝，排泄．
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬．局所麻酔薬．中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬．麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬．
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬．抗痙攣薬（抗てんかん薬）． 筋弛緩薬．抗パーキンソン薬．
4	自律神経薬． オータコイド	自律神経の基礎知識．コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）．アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬．オータコイドの種類とその作用．プロスタグランディンの臨床応用．
5	強心薬．抗狭心症薬と抗不整脈薬．	強心薬（ジギタリス）の投与法．ジギタリスの副作用とその対策．抗狭心症薬．抗不整脈薬．
6	利尿薬． 降圧薬．	利尿薬．利尿薬の臨床的応用． 降圧薬．抗動脈硬化薬．
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬．駆虫薬． 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬． 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬．
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬．止血薬．抗血栓療法薬． 開発と化学療法．副作用と組み合わせ．
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬．抗ウイルス剤．免疫について．免疫療法．
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法．消毒薬の濃度と殺菌速度． 呼吸器病薬．抗結核薬．
11	皮膚疾患に用いられる薬剤．	皮膚疾患に用いられる薬剤． 造影剤．放射性医薬品．

回	講　義　題　目	講　義　内　容
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤．点眼薬． 輸液	ショックの原因別分類．ショックの対応と薬剤． 点眼薬．輸液の目的．輸液剤．
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬．ビタミン剤	中毒の状態．急性中毒に対する処置．解毒剤． 排泄と吸着．代謝賦活薬・ビタミン剤
14	小児･妊婦･老年者に対する薬物療法． 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法．妊婦の薬物療法．老年者の薬物療法． 嗜好品の薬理．薬物相互作用．
15	薬剤の安定性：保存および混合の問題点．まとめ．	薬剤の保存．薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）．

教　科　書	特になし
参　考　書	「新版看護学全書６ 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」（メヂカルフレンド社）

授業科目名	臨床検査学	単位認定者	小林　功
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎的知識を学習する。		
学習到達目標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。		
関連科目	解剖学（人体構造）　生理学（人体機能）を含む各臨床科目		
成績評価方法・基準	定期試験（筆記）80%、授業態度 20%		
準備学習の内容	前の回の講義時に指示をする。		

回	講義題目	講義内容
1	臨床検査とその役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。
2	臨床検査の流れと 医療スタッフの役割	臨床検査はどの様にして行われるか。また、医療チームの役割について解説する。
3	一般検査	尿、便、体液の検査の説明
4	血液検査	血沈（赤沈）、血球、出血、凝固
5	化学検査（1）	血清タンパク、酵素、糖代謝、
6	化学検査（2）	脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等
7	免疫・血清検査（1）	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫
8	免疫・血清検査（2）	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等
9	内分泌検査（1）	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン
10	内分泌検査(2)	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等
11	微生物検査及び病理検査	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性及び細胞診、病理組織検査
12	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査
13	ＲＣＰＣ(1)	症例検討１
14	ＲＣＰＣ(2)	症例検討２
15	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　別巻 6　臨床検査」大久保昭行 編（医学書院）
参考書	「最新臨床検査の ABC」日本医師会編（医学書院）2007 「臨床検査提要　23 判」金井正光編（金原出版）2005 「検査データの生理的変動 –原理から実践へ–」中甫訳（医歯薬出版）2004

授業科目名	緩和医療学	単位認定者	斎藤龍生
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。		
学習到達目標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族の QOL 向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。		
関連科目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉･地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人･老年看護学総論・在宅看護学		
成績評価方法・基準	試験（70%）・レポート（30%）で評価を行う		
準備学習の内容			

回	講義題目	講義内容
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に，がん患者さんが抱えている問題点を提示します．その中で，「末期がんの患者さんと如何に話すか？」，「患者さんが人間らしく生きるために何ができるか？」について，一緒に考えていく講義を予定しています．患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し，基本的な技術を紹介いたします．
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策
3	緩和医学各論	疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について
7	緩和的リハビリテーション 緩和医療における チームアプローチ	緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種の役割と機能
8	レポート(試験)	

教科書	使用せず
参考書	「臨床緩和ケア」大学病院の緩和ケアを考える会（青海社） 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子（ヌヴェール） 「ターミナルケア 10 月増刊号わかる　できる　がんの症状マネジメントⅡ」ターミナルケア編集委員会（三輪書店） 「家族看護　特集　終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「家族看護　特集　遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「ナースのためのアロマセラピー」日本アロマセラピー学会看護研究会（MC メディカル出版）

授業科目名	病態栄養学	単位認定者	後藤香織
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえるよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。		
学習到達目標	基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあった栄養学的対策を習得する。		
関連科目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学		
成績評価方法・基準	定期試験 85%、平常点 15%		
準備学習の内容			

回	講義題目	講義内容
1	臨床栄養学とは	１）食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する ２）栄養学の基礎の復習 ３）臨床調理の基本について簡単に紹介する
2	栄養の評価法	１）臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 ２）栄養学に関する研究について
3	疾病と栄養（1）	**肥満とやせ、摂食障害**について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。
4	疾病と栄養（2）	**糖尿病と栄養学** 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。
5	疾病と栄養（3）	**糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方** 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する
6	疾病と栄養（4）	**動脈硬化と高脂血症** 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。
7	疾病と栄養（5）	**高血圧、循環器疾患** 高血圧症は、成人病のなかで２０％を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。
8	疾病と栄養（6）	**骨粗しょう症、ミネラル摂取異常** 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のＱＯＬの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
9	疾病と栄養（7）	**消化器疾患その１** 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。
10	疾病と栄養（8）	**消化器疾患その２** 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。
11	疾病と栄養（9）	**腎疾患と電解質** 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、ＰＨの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。
12	疾病と栄養(10)	**がんと栄養** がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。
13	疾病と栄養(11)	**１）血液疾患、アレルギーと栄養** 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 ２）嚥下障害について
14	疾病と栄養(12)	**１）小児、高齢者の栄養** 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 **２）栄養法の実際** 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。
15	まとめ	

教　科　書	「エッセンシャル　臨床栄養学」佐藤和人他　著（医歯薬出版） 「糖尿病食事療法のための食品交換表」（文光堂）
参　考　書	「ナースのための生化学・栄養学」（南山堂）

授業科目名	臨床心理学	単位認定者	森　慶輔
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	主に講義による	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する		
学習到達目標	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面、治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す		
関連科目	すべての科目と関連		
成績評価方法・基準	期末試験（おおむね 50%）、課題レポート（おおむね 20%）と授業態度（おおむね 30%）を総合して評価する		
準備学習の内容	教科書の該当部分を読んでおく		

回	講義題目	講義内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	臨床心理学の基礎 1	人間の問題行動はどのように捉えられるのか、正常と異常の区別の観点から考える
3	臨床心理学の基礎 2	人間の発達を概観し、発達段階と疾病・障害の関係について理解する
4	臨床心理学の基礎 3	保健医療領域における問題行動について、主に転移・逆転移と防衛機制について理解する
5	臨床心理アセスメント 1	心理領域のアセスメントについて、その目的と方法を理解する
6	臨床心理アセスメント 2	日本で広く使われている個別式知能検査について理解するとともに、認知症のスクリーニング検査を体験する
7	臨床心理アセスメント 3	日本で広く使われている矢田部ギルフォード性格検査と CMI を体験し、心理テストによるアセスメントの長所短所を考える
8	臨床心理アセスメント 4	日本で広く使われている風景構成法（あるいはバウムテスト）を体験するとともに、箱庭の VTR を通して子どもの心理状態のアセスメントについて考える
9	心理（精神）療法 1	S, Freud の精神分析について、その基本的な考え方を理解する
10	心理（精神）療法 2	C, R, Rogers のクライエント中心療法について、その基本的な考え方を理解する
11	心理（精神）療法 3	行動療法（あるいは認知行動療法）について、その基本的な考え方を理解する
12	心理（精神）療法 4	家族療法／短期療法について、その基本的な考え方を理解する
13	患者中心の看護とは？1	患者中心の看護とはどのようなものか、グループワークを通して考える
14	患者中心の看護とは？2	患者中心の看護とはどのようなものか、グループワークを通して考える
15	まとめ	授業のふりかえりを行う

教科書	山祐嗣・山口素子・小林知博 編著「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房，2009 年 ※１年次後期の「心理学」で使用したものと同じものなので、既に持っている場合は購入の必要はありません
参考書	鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版，2009 年 高橋和巳「心を知る技術」筑摩書房，1997 年（文庫版は 2000 年）

授業科目名	疫学	単位認定者	石館　敬三
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。		
学習到達目標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。		
関連科目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論		
成績評価方法・基準	試験 100%		
準備学習の内容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講義題目	講義内容
1	疫学概念・歴史	疫学の目的、対象、方法、歴史的考察
2	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学
3	健康指標、頻度と曝露	疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度
4	疫学研究方法	記述疫学と分析疫学、5WBridge
5	疫学調査方法	後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論
6	疫学調査方法	バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理
7	スクリーニング	敏感度、特異度、陽性反応適中率
8	感染症の疫学	感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則
9	同　上	わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症
10	同　上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒
11	同　上	防疫活動要領、予防接種、１類感染症
12	同　上	結核の動向と対策、HIV ・STD の動向と対策
13	非感染症の疫学	悪性新生物、自殺、母子
14	同　上	生活習慣病
15	同　上	環境保健

教科書	基礎からわかる　看護疫学入門　第２版　大木秀一著　　医歯薬出版（株）
参考書	国民衛生の動向　　（財）厚生統計協会

授業科目名	保健統計	単位認定者	石館　敬三
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	疫学研究を支持する大切な方法論である。健康問題の解析のためにいつでも、どこでも通用する標準的な方法論である保健統計学を理解する。		
学習到達目標	健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。		
関連科目	疫学、情報処理、公衆衛生学		
成績評価方法・基準	試験 100%		
準備学習の内容	「保健統計学」の専門用語について予め調べておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	母集団と標本調査	無作為抽出法
2	図表による表示方法	度数分布、ヒストグラム
3	代表値と散布度	平均値中央値、最頻値
4	分散と標準偏差	偏差・分散の標準偏差、変動係数
5	推　定	点推定と区間推定
6	検　定	帰無仮説と統計学的検定
7	統計学で用いられる分布	正規分布、七分布、カイ２乗分布
8	関係の指標	相関と回帰、相関図、相関係数
9	質的変数間の関連	クロス表とカイ２乗検定
10	同　上	四分表の検定
11	保健統計の歴史	保健統計の考案と基礎づくり
12	健康指標	健康指標の算式、分類
13	人口静態・動態統計	人口ピラミッド、出生統計、死亡統計
14	保健統計調査	指定統計、その他の統計調査
15	情報処理の基礎知識	パーソナルコンピュータの活用 ネットワーク、LAN、インターネット

教科書	基礎からわかる　看護疫学入門　第２版　大木秀一著　　医歯薬出版（株）
参考書	国民衛生の動向　　（財）厚生統計協会

授業科目名	社会福祉・社会保障制度論	単位認定者	角田　傑
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	看護師・保健師業務を志すものにとって、関連する社会福祉・社会保障の法律・制度を理解する。 変化する社会情勢の中で人間の生命、健康、生活を根底で支える役割を理解する。		
学習到達目標	1. 社会福祉・社会保障の法律・制度・福祉援助を理解する。 2. 社会情勢の変化に伴う制度の変遷を理解する。 3. 福祉行財政の仕組みを理解する。		
関連科目	地域保健行政　社会福祉・地域サービス論　地域看護学概論　地域看護学Ⅲ　成人看護学総論 家族学　法学　地域社会学　経済学　精神看護学総論　公衆衛生学　保健統計		
成績評価方法・基準	試験（90%）・授業への参加（10%）で評価する。		
準備学習の内容	配布された資料から専門用語の意味を事前に調べて理解しておく。		

回	講義題目	講義内容
1	社会保障・社会福祉の体系、発展過程	1. 社会保障・社会福祉とは何か 2. 社会保障・社会福祉の変遷 3. 社会保障・社会福祉の仕組み 4. 戦後のわが国の社会保障制度の展開 5. 社会保障・社会福祉の問題と展望
2	社会保障・社会福祉の財政	1. 社会保障・社会福祉の財政の仕組み 2. 日本における社会保障・社会福祉の財政 3. 社会保障・社会福祉関係費の推移と負担
3	所得保障	1. 年金制度とその発展過程 2. 年金制度の仕組みと給付 3. 年金制度の課題
4	介護保障	1. 介護保険制度のねらいと経過 2. 介護保険制度の仕組みとサービス事業の種類 3. 介護保険の課題
5	貧困と社会福祉	1. 生活保護制度とは何か 2. 生活保護制度の仕組みとサービス事業の種類 3. 生活福祉資金貸付制度
6	児童と母子の社会福祉	1. 児童の権利保障と児童福祉制度 2. 児童虐待とは 3. 母子及び寡婦の福祉制度
7 8 9	障害者（児）の社会福祉	1. 障害者（児）福祉の理念と実態 2. 身体障害者（児）の福祉 3. 精神障害者の福祉 4. 知的障害者（児）の福祉 5. 障害者の雇用保障
10 11	高齢者の社会福祉	1. 高齢者福祉の理念と変遷 2. 高齢者の生活実態 3. 高齢者の福祉サービス 4. 高齢者の虐待 5. 高齢者の雇用

回	講　義　題　目	講　義　内　容
12	社会福祉施設の現状と課題	1. 社会福祉施設の変遷 2. 社会福祉施設の種類と推移 3. 社会福祉施設の運営 4. 社会福祉施設の社会化 5. 社会福祉施設の課題
13 14	地域福祉とコミュニティ・ケア	1. 地域社会とコミュニティ・ケアとは 2. 社会福祉協議会、地域団体と地域活動 3. 民生児童委員の活動 4. 地域活動の課題 5. 看護師・保健師の地域福祉での役割 6. 社会保障・社会福祉における看護師・保健師の役割
15	まとめ	

教　科　書	教科書は使用しない。講義に資料を配付する。
参　考　書	講義の中で紹介する。

授業科目名	地域保健行政	単位認定者	大野絢子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	保健師の活動は、担当する地域の健康政策や施策の立案、健康問題解決のための具体的活動が求められる。活動は、各方面の関係者との調整、協力により進められる。これらの活動の基礎となる法律、制度、政策についての理解を深めることを目的とする。		
学習到達目標	保健医療の行財政の基本的な知識を理解させ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や、保健医療のサービスの調整及び評価を行なうための基本的な能力を養う。また、地方公共団体行攻の保健医療計画及びサービス実施計画に必要な知識を習得させる。		
関連科目	1. 社会福祉･社会保障制度論 2. 保健師教育科目のうち、公衆衛生学、健康管理論、社会福祉･地域サービス論、地域看護学Ⅱ		
成績評価方法・基準	定期試験（100%）		
準備学習の内容			

回	講義題目	講義内容
1	保健医療福祉行政のめざすもの	1　公衆衛生の定義 2　保健医療行政のめざすものは何か
2	わが国の保健医療福祉制度の変遷	1　公衆衛生の基盤形成 2　新たな課題と政策の発展
3	保健医療福祉行政の財政の仕組み	1　国･都道府県･市区町村の行政の仕組みと役割
4		2　地方公共団体の行政の単位と仕組み 3　保健医療福祉の財政
5	同上	1　介護保険制度
6	地域保健行政と保健師活動	1　地域保健の体系
7		a地域保健活動と地方自治
8		b地域保健に関する公的機関 c保健所の役割と機能強化 d市町村保健センターの役割
9	同上	2　地域単位の保健師活動と連携
10	同上	3　健康危機管理
11	同上	4　情報公開･個人情報保護と公務員 5　医療従事者としての保健師
12	保健医療福祉の計画と評価	1　地方公共団体の保健医療福祉計画
13	同上	2　保健計画の策定プロセス 3　保健計画の推進と評価
14	保健行政に関する法律	1　医療法
15		2　保健師･助産師･看護師法 3　看護師等の人材確保の推進に関する法律

教科書	1.　「標準保健師講座　別巻１　保健医療福祉行政論」　（医学書院） 2.　「国民衛生の動向2011/2012」（厚生統計協会） 3.　「福祉小六法　2012」（中央法規）
参考書	1.　「最新保健学講座７　保健医療福祉行政論」（メヂカルフレンド社） 2.　「公衆衛生看護学大系の保健福祉行政論」　（日本看護協会出版会）

授業科目名	歯科保健	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	木曜 18：00～19：00
科目の目的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得せしむる。		
学習到達目標	歯科の基本的知識を持っている。歯科医師や歯科衛生士と専門的な会話ができる。		
関連科目	看護学全般		
成績評価方法・基準	定期試験 80%、課題 20%		
準備学習の内容	シラバスに従い教科書を読んできてください。		

回	講義題目	講義内容
1	オリエンテーション	歯科保健とは？　授業の進め方
2	歯	歯・歯周組織の機能、構造
3	歯	歯・歯周組織の組織学
4	口腔とその周囲の解剖生理	口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺
5	口腔とその周囲の解剖生理	上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節
6	う蝕	う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法
7	歯周病	歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法
8	顎関節症	顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法
9	その他の歯科疾患	口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症
10	母子歯科保健	乳幼児歯科検診について
11	学校歯科保健	学校歯科健診について
12	地域歯科保健	市町村での歯科保健のとりくみ
13	成人歯科保健	成人における歯科疾患の疫学
14	老人歯科保健	高齢者の口腔ケア
15	口腔ケア	口腔ケア実技

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学 15　歯・口腔」小島愛子ほか（医学書院）
参考書	

授業科目名	救急法	単位認定者	北林　司
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	集中講義期間中 9時－18時までは学内で対応 18時－21時までは E-mail で対応
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞といった生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに意識の確認・胸骨圧迫心臓マッサージ・気道確保・人工呼吸・ＡＥＤによる除細動などの一連の一次救命処理（ＢＬＳ）を実践できることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会（AHA）の医療従事者向けＢＬＳライセンス取得を目指す。また、高度な気道確保である気管内挿管の技術を学び、院内およびプレホスピタルケアにおいて適切な気管内挿管の介助ができ、臨時応急の場合は自らも挿管できる技術を習得する。		
学習到達目標	1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置（ＢＬＳ）について説明できる。 4. 気道異物（ＦＢＡＯ）の治療手順を説明できる。 5. ＡＥＤを含む医療従事者向け一次救命処置（ＢＬＳＨＣＰ）が実践できる。 6. 気管内挿管の介助および自らが挿管できる。		
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・成人看護学・災害看護		
成績評価方法・基準	実技試験(100%)		
準備学習の内容	看護系大学として在学中にＢＬＳＨＣＰライセンス取得を促進したのは当大学が先駆けである。ＡＨＡのＢＬＳＨＣＰ受講は、現役の医師・看護師らと共に挑戦することになる。したがって、呼吸器・循環器・脳血管系の解剖生理を復習した上で本科目に臨み、みごとライセンスを取得してもらいたい。非常に重みのあるＢＬＳＨＣＰライセンスの取得は、国家試験合格のみならずその後の看護活動に際して大きな自信となるはずである。		

回	講義題目	講義内容
1	(北林　司･小池菜穂子) わが国の救命医療体制	①　わが国救命医療体制を理解する。 ②　救急医療従事者（EMS)について理解する。
2	一次救命処置（BLS）	①　一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 ②　救命の連鎖について理解する。
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	①　呼吸器系の解剖・生理を理解する。 ②　心血管系の解剖・生理を理解する。 ③　脳血管系の解剖・生理を理解する。
4	急性冠症候群（ACS） について	①　急性冠症候群（ACS)を理解する。 ②　急性心筋梗塞（AMI）の症状を理解する。 ③　胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。
5	急性脳血管障害について	①　一過性脳虚血発作（TIA）について理解する。 ②　虚血性脳血管障害について理解する。 ③　出血性脳血管障害について理解する。 ④　急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。
6	成人に対する CPR 演習①	①　反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ②　胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 ③　呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④　成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤　成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥　早期除細動の重要性を理解する。 ⑦　AED の目的を理解する。 ⑧　AED の使用方法を理解する。 ⑨　AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
7	成人に対するCPR演習②	①　反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ②　成人に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 ③　呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④　成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤　成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥　早期除細動の重要性を理解する。 ⑦　AEDの目的を理解する。 ⑧　AEDの使用方法を理解する。 ⑨　AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
8	成人に対するCPR演習③	①　反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ②　成人に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解し実践できる。 ③　成人に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④　成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤　成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥　早期除細動の重要性を理解する。 ⑦　AEDの目的を理解する。 ⑧　AEDの使用方法を理解する。 ⑨　AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
9	成人に対するＣＰＲ演習④	①　反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ②　成人に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解し実践できる。 ③　成人に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④　成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤　成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥　早期除細動の重要性を理解する。 ⑦　AEDの目的を理解する。 ⑧　AEDの使用方法を理解する。 ⑨　AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
10	成人および乳児の異物による気道閉塞（FBAO）について	① 成人の異物による気道閉塞の原因を理解し実践できる。 ② 反応のある成人のFBAOに対する治療手順を理解し実践できる。 ③ 反応のない成人のFBAOに対する治療手順を理解し実践できる。
11	乳児に対するＣＰＲ演習①	① 反応のない乳児に遭遇した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 乳児に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解し実践できる。 ③ 乳児に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ④ 乳児に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。
12	乳児に対するCPR演習②	① 反応のない乳児に遭遇した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 乳児に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解し実践できる。 ③ 乳児に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ④ 乳児に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。
13	高度な気道確保演習	①気管内挿管の介助および自らが気管内挿管できる。
14	成人に対する一連のＢＬＳ実技試験	① ＡＨＡのＢＬＳアルゴリズムに沿って一次救命処置が実践できる。
15	成人に対する一連のＢＬＳ実技試験およびまとめ	① ＡＨＡのＢＬＳアルゴリズムに沿って一次救命処置が実践できる。

教　科　書	別途プリントを配布するので教科書は購入不要
参　考　書	ポケットマスク購入要（2,000円）

授業科目名	健康管理論	単位認定者	下村洋之助
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	２１世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりをみせており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。		
学習到達目標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。		
関連科目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論		
成績評価方法・基準	試験 80%と授業態度 20%で評価		
準備学習の内容	将来の医療人として幅広い知識を修得するよう、新聞・雑誌等参考にしておく		

回	講義題目	講義内容
1	健康とは	健康の定義、健康観、予防医学
2	健康の指標	人口、出生、婚姻、死亡、寿命など
3	健康増進	ＷＨＯの定義、わが国の現状
4	生活習慣（1）	栄養・食生活
5	生活習慣（2）	運動、休養、飲酒など
6	疾病予防（1）	生活習慣病、がん
7	疾病予防（2）	循環器疾患、代謝疾患
8	疾病予防（3）	骨・関節疾患、歯科口腔疾患
9	疾病予防（4）	感染症
10	疾病予防（5）	精神疾患（統合失調症、うつ病）
11	健康管理（1）	健康教育、集団検診など
12	健康管理（2）	健康管理の実際
13	健康情報（1）	健康情報
14	健康情報（2）	保健医療情報システム
15	まとめ	健康管理論まとめ

教科書	「学生のための健康管理学」 木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著（南山堂）
参考書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著（南江堂）

授業科目名	カウンセリング	単位認定者	森　慶輔
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	主に講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	さまざまな疾病・障害をもっている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する		
学習到達目標	特に精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師として必要な援助的態度を身につける		
関連科目	すべての科目と関連		
成績評価方法・基準	課題レポート2本（おおむね60%），授業への参加態度（おおむね40%）を総合して評価する		
準備学習の内容	講義題目に書かれている内容について、ある程度調べておくこと		

回	講義題目	講義内容
1	患者を理解するとは？	看護師や保健師にとって、患者やその家族のことを理解することは必須条件であるといえる では患者を理解するとはどのようなことなのかを体験的に理解する
2	発達障害	幼児期に指摘されることが多い発達障害に関する知識を身につけるとともに、医療・教育・福祉の連携した支援のあり方について考える
3	不安障害／摂食障害	思春期・青年期に発現することが多い不安障害、摂食障害に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
4	気分障害	近年患者数が激増している気分障害に関する知識を身につけるとともに、病態に応じた支援・治療のあり方について考える
5	統合失調症	統合失調症に関する知識を身につけるとともに、社会復帰にむけた支援・治療のあり方について考える
6	認知症	認知症に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
7	病気になる、障害を負うということの意味	病気になる、障害を負うということを患者はどのように意味づけているのかを手記を通じて考える
8	まとめ	まとめ

教科書	坂本真佐哉ほか「心理療法テクニックのススメ」金子書房，2001年
参考書	アステラス製薬エッセイコンテスト事務局「病気が教えてくれたこと」文藝春秋企画出版部，2010年

授業科目名	社会福祉・地域サービス論	単位認定者	金谷　春代
対象学年	第　2　学年	学期	後期
単位数	1 単位（15 コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。		
学習到達目標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。		
関連科目	地域社会学　社会福祉・社会保障制度論		
成績評価方法・基準	筆記試験(70%)に平常点(30%)を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。		
準備学習の内容			

回	講義題目	講義内容
1	福祉の捉え方	福祉とは何か
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について
4	地域福祉の内容と展開	福祉サービスの種類と内容について
5	サービスの実際Ⅰ	具体的なサービスについて理解する
6	サービスの実際Ⅱ	
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的
15	まとめ	

教科書	特になし
参考書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」（医学書院）　「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授業科目名	看護援助学Ⅰ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。		
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論		
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、平常点、講義に関する意見（20%）		
準備学習の内容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講義題目	講義内容
1	対象者に適した看護援助	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。
	衛生的手洗い	看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。
	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ。
2 3	生活環境	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。
4 5	フィジカルアセスメント	呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
6	コミュニケーション	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。
	罨法	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法（罨法）について学ぶ。
7	まとめ①	第1回～6回の復習を行う。
8	活動と運動	活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
	休息と睡眠	休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
9 10	食生活と栄養	食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
11	清潔保持と衣生活	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
12	排泄	排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
13	感染予防	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。
14	安全・安楽	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。
15	まとめ②	第 8 回～14 回の復習を行う。 日常生活援助技術についてのまとめを行う。

教　科　書	『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学－基礎看護技術』志自岐康子他（編）（メディカ出版）. 『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学－ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他（編）（メディカ出版）.
参　考　書	『写真でわかる基礎看護技術①－看護技術を基礎から理解！』村上美好（監修）（インターメディカ）. 『写真でわかる基礎看護技術②－日常の看護技術を深めるために』村上美好（監修）（インターメディカ）.

授業科目名	看護援助学Ⅱ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの知識・技術を踏まえ、診療に伴う援助技術の根拠を理解する。		
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. 対象者の状態を理解し、対象者のニーズに対応するためのフィジカルアセスメント技術の活用を学習する。 3. 診療に伴う援助技術について、根拠に基づいて理解する。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ、その他各看護学総論		
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、平常点、講義に関する意見（20%）		
準備学習の内容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講義題目	講義内容
1	診療に伴う援助技術とは 看護記録・報告について	診療に伴う援助技術について、看護師の役割と他職種との連携の必要性を学ぶ。 対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの活用について学ぶ。看護援助の実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。
2 3 4	検査・処置時の援助技術について	検査（検体検査、生体検査）の概要を学ぶ。検査時の看護師の役割について学ぶ。 検体検査での検体の取り扱いおよび検査時の対象者への対応について学ぶ。 生体検査の種類および検査時の対象者への対応について学ぶ。 処置の概要を学ぶ。処置時の看護師の役割について学ぶ。
5 6	フィジカルアセスメントについて	筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
7	まとめ①	第1回～6回の復習を行う。
8 9	呼吸を楽にする技術について	呼吸を楽にする技術（吸引・吸入、姿勢・呼吸法）について、具体的援助方法について学ぶ。
10	創傷管理技術について	創傷管理における具体的援助方法について学ぶ。
11 12 13	与薬に伴う看護技術について	薬剤の生体への影響と薬剤の種類と取り扱いについて学ぶ。 薬剤管理における看護師の役割と具体的取扱い方法を学ぶ。 薬剤投与の方法について理解する。内服による薬剤投与時の援助技術を学ぶ。 注射（筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）に伴う援助技術について学ぶ。 輸液による薬剤投与の管理方法（静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ）について学ぶ。
14	死亡時のケアについて	死亡時のケアの概要を学ぶ。
15	まとめ②	第8回～14回の復習を行う。 診療に伴う援助技術についてのまとめを行う。

教科書	『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学－基礎看護技術』志自岐康子他（編）（メディカ出版）. 『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学－ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他（編）（メディカ出版）.
参考書	『写真でわかる基礎看護技術①－看護技術を基礎から理解！』村上美好（監修）（インターメディカ）. 『写真でわかる基礎看護技術②－日常の看護技術を深めるために』村上美好（監修）（インターメディカ）. 『写真でわかる臨床看護技術－看護技術を徹底理解！』村上美好（監修）（インターメディカ）.

授業科目名	看護援助学演習Ⅰ	単位認定者	馬醫世志子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	看護援助学Ⅰにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ		
成績評価方法・基準	実技試験（50%）、課題（50%）および演習参加状況		
準備学習の内容	1. 看護援助学Ⅰでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講義題目	講義内容
1	衛生的手洗い	衛生的手洗いの方法を習得する。
2	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ
3	生活環境	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。
4		環境測定を実施し、環境調整について学ぶ。
5		ボディメカニクスの原理を体現する。
6		ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。
7	フィジカルアセスメント	生命の徴候（バイタルサイン）を正確に測定する方法を習得する。
8		呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。
9		
10		
11	コミュニケーション	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。
12		
13		
14	罨法	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法（罨法）について学ぶ
15	活動と休息	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。
16		ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。
17	まとめ①	バイタルサイン測定と聴診についての実技試験実施。
18	1-16 回の復習	
19	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。
20		健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。
21	清潔保持と衣生活	全身清拭、手浴、足浴、寝衣交換の方法を習得する。
22		
23	排泄	床上排泄（便器・尿器使用）の援助方法を習得する。
24		浣腸法を習得する。
25	感染予防	基本的な無菌操作（滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い）を習得する。
26		導尿法（一時的導尿法、持続的導尿法）について習得する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
27 28	洗髪	洗髪の方法を習得する。
29	まとめ②	日常生活援助技術についての実技試験実施。
30	19-28 回の復習	看護援助学演習Ⅰを振り返り、臨床での応用を考える。

教　科　書	志自岐康子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学 - 基礎看護技術』メディカ出版. 松尾ミヨ子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学 - ヘルスアセスメント』メディカ出版. 村上美好（監修）『写真でわかる基礎看護技術① - 看護技術を基礎から理解！』インターメディカ. 村上美好（監修）『写真でわかる基礎看護技術② - 日常の看護技術を深めるために』インターメディカ
参　考　書	なし

授業科目名	看護援助学演習Ⅱ	単位認定者	馬醫世志子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	看護援助学Ⅱにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 診療に伴う基本的な援助技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ、看護援助学Ⅱ、その他各看護学総論		
成績評価方法・基準	実技試験（50%）、課題（50%）および演習参加状況		
準備学習の内容	1. 看護援助学Ⅱでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講義題目	講義内容
1 2	生体検査、検体検査の概要	生体検査、検体検査における看護師の役割について理解する。（講義）
3 4 5 6	生体検査	生体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・心電図検査 ・呼吸機能検査（スパイロメーター、経費的動脈血酸素飽和度）
7 8 9 10	検体検査	検体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・採尿 ・採血
11 12 13 14 15 16	フィジカルアセスメント	対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術の看護援助への応用について理解する。
17 18	まとめ① 1-16 回の復習	フィジカルアセスメント技術についての実技試験実施。
19 20	呼吸管理	吸引、吸入、体位ドレナージの援助技術を習得する。
21 22	創傷管理	ドレッシング法、包帯法、褥瘡予防に関する援助技術を習得する。

回	講　義　題　目	講　義　内　容
23 24 25 26 27 28	与薬	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な援助技術を習得する。 ・経口与薬 ・筋肉内注射、皮下注射 ・輸液管理方法（静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ）
29	まとめ②	
30	18-28 回の復習	

教　科　書	志自岐康子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑱基礎看護学 - 基礎看護技術』メディカ出版. 松尾ミヨ子他（編）『ナーシング・グラフィカ⑰基礎看護学 - ヘルスアセスメント』メディカ出版. 村上美好（監修）『写真でわかる基礎看護技術① - 看護技術を基礎から理解！』インターメディカ. 村上美好（監修）『写真でわかる基礎看護技術② - 日常の看護技術を深めるために』インターメディカ 村上美好（監修）『写真でわかる臨床看護技術 - 看護技術を徹底理解！』インターメディカ
参　考　書	なし

授業科目名	看護過程論	単位認定者	馬醫世志子
対象学年	第2学年	学期	通年
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習	オフィス・アワー	水曜：12:10～12:50
科目の目的	情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価の構成要素からなる看護過程について学び、対象者の状況に合わせて看護援助を行うための基礎的能力を身につける。複数の紙上事例を用いて、看護過程展開について学習する。臨床実習で受け持つ対象者の看護援助の際に、看護援助計画立案までの過程を考察できるよう、基本的な学習を行う。		
学習到達目標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義を述べることができる。 2. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント（解釈・判断）ができる。 3. 紙上事例のアセスメント結果から、適切な看護診断を優先順位を考えながら導き出すことができる。 4. 紙上事例の患者目標を設定し、目標達成の時期を考えることができる。 5. 看護計画の立案、修正、評価方法が理解できる。		
関連科目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学 専門科目群：看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ		
成績評価方法・基準	個人ワーク成果40%、グループワーク成果60%、および講義・演習参加状況		
準備学習の内容	各回で提示される課題に取り組み、次回までに前回の内容を理解しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	看護過程	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。
2 3	情報収集	患者の情報をどのように収集し、どのように記録するかについて学ぶ。
4 5 6 7	情報の整理と解釈	収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。
8	看護問題の抽出と看護診断	看護問題の抽出方法、看護診断について学ぶ。
9	看護計画の立案	看護計画の立案方法と記載方法について学ぶ。 立案した計画を実施する際の注意事項や評価の視点について学習し、理解する。
10	経過記録	様々な経過記録の概要について学び、SOAP 記録の具体的な記載方法を知る。
11	看護計画の修正と評価	SOAP 記録と看護計画の連動性について知り、立案した看護計画の修正と評価について学ぶ。
12 13 14 15	看護過程展開の練習	問題の抽出と優先順位の決定、患者目標と看護計画、SOAP 記録と看護計画修正を中心に、事例を用いて看護過程の展開の練習を行う。
16 17 18 19 20	看護過程の展開（事例 A）	事例 A について、既に学習したことを踏まえて、対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し、評価する。（個人ワーク）

回	講　義　題　目	講　義　内　容
21 22 23	看護過程の展開（実習受け持ち事例）	実習受け持ち事例について、アセスメントから看護計画立案までと SOAP 記録の見直しを行い、看護援助の再評価を行う。（グループワーク）
24 25	カンファレンス	効果的なグループワーク、カンファレンスについて学び、今後の学習方法について検討する。
26 27 28 29 30	看護計画立案（事例 B）	事例 B について、まず個人ワークを行い、既に学習したことを踏まえて、対象者のニーズに合わせた看護計画を立案する。次にグループワークを行い、個人で立案した看護計画の検討を行う。

教　科　書	Carpenito-Moyet, L. J.『看護診断ハンドブック』第 9 版（新道幸恵監訳）．医学書院. 江川隆子（編）『これなら使える看護診断―厳選 84NANDA―看護診断ラベル』医学書院. 神田清子（編）『看護データブック』第 3 版．医学書院.
参　考　書	江川隆子（編）『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』第 3 版．ヌーヴェルヒロカワ.

授業科目名	基礎看護学特論	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義･演習	オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50
科目の目的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究を取り上げながら考察する。		
学習到達目標	1. 看護に関するについて、文献等を用いて情報収集ができる。 2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について考えることができる。 3. 看護の専門性について、演習での学びに基づいて考えることができる。		
関連科目	看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱをはじめとする看護学全般の科目		
成績評価方法・基準	課題レポートの内容（80%）、平常点、講義に関する意見（20%）		
準備学習の内容	特になし		

回	講義題目	講義内容
1 2	看護の現状	看護に関する現状ついて、近年のトピックスから文献を用いて考察する。
3 4	看護の課題と展望	文献を読み、看護に関する課題と展望について考察する。
5 6 7	看護の専門性	対象を理解する方法としてのフィジカルアセスメント技術を取り上げ、医療チームにおける看護の専門性を考察する。
8	まとめ	第1回～7回の内容ついてまとめる。

教科書	なし
参考書	必要時に提示する

授業科目名	成人看護学総論	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。		
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特性を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。		
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成績評価方法・基準	定期試験70%、レポート30%		
準備学習の内容	特になし		

回	講義題目	講義内容
1	成人看護学の概要 成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握
2	成人各期の特徴と保健問題	青年期の特徴と保健問題、 壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題
3	成人保健1 生活習慣病の予防1	生活習慣病対策：糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満 糖尿病を中心に　患者の体験　患者を生きる
4	成人保健2 生活習慣病2	がんの動向、がん対策、システム がん対策基本法　がん患者の体験
5	成人保健3	成人保健と性、成人保健と労働
6	環境と健康問題	環境と健康問題
7	成人期にある人の健康障害と看護1	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護1
8	成人期にある人の健康障害と看護2	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護2

教科書	「新体系看護学14　成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向　厚生の指標　2011/2012年版」（厚生統計協会）
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅰ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。		
学習到達目標	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成績評価方法・基準	筆記試験 100%		
準備学習の内容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	（牛込三和子） 成人看護学の概要	
2	（栗田昌裕） 概論 1	
3	概論 2	
4	消化器疾患 1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	消化器疾患 2	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	消化器疾患 3	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	呼吸器疾患 1	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	呼吸器疾患 2	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	呼吸器疾患 3	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	循環器疾患 1	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	循環器疾患 2	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	循環器疾患 3	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	血液・造血器疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	神経系疾患 1	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	神経系疾患 2	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】－【15】（医学書院）
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅱ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	1．成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2．機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学習到達目標	栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関連科目	基礎看護学・解剖学・生理学・老年看護学		
成績評価方法・基準	筆記試験 100%		
準備学習の内容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講義題目	講義内容
	（小林　功）	
1	血液疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
2	栄養代謝障害 1	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
3	栄養代謝障害 2	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
4	栄養代謝障害 3	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	内分泌疾患	主な内分泌疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	腎疾患 1	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	腎疾患 2	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	感染症	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患 1	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患 2	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	泌尿器疾患	主な泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	眼疾患	主な眼疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	皮膚疾患・歯・口腔疾患	主な皮膚・歯・口腔疾患の病態生理、症状、検査、治療

教科書	系統看護学講座【2】－【15】　医学書院 「周手術期看護論」　雄西　智恵美、秋元　典子　編集　ヌーヴェルヒロカワ
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学Ⅲ	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学習到達目標	1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。		
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成績評価方法・基準	筆記試験100%（各授業中の確認テストも含む）		
準備学習の内容	事前に指定教科書を読んでおくこと。		

回	講義題目	講義内容
	（牛込三和子）	
1	臨床看護学総論1	導入
2	臨床看護学総論2	検査・治療と看護
	（酒井美絵子）	
3	臨床看護学総論3	病期と看護（クリティカル・ケア、周手術期、回復期）
	（牛込三和子）	
4	臨床看護学総論4	病期と看護（慢性期）
	（萩原英子）	
5	臨床看護学総論5	病期と看護（ターミナル）
	（酒井美絵子）	
6	消化器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
7	消化器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護
	（鈴木珠水）	
8	呼吸器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
9	呼吸器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護1
10	呼吸器疾患患者の看護3	症状・障害と看護、主な疾患と看護2
11	呼吸器疾患患者の看護4	症状・障害と看護、主な疾患と看護3
12	呼吸器疾患患者の看護5	症状・障害と看護、主な疾患と看護4
	（未定）	
13	循環器疾患患者の看護1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
14	循環器疾患患者の看護2	症状・障害と看護、主な疾患と看護1
15	循環器疾患患者の看護3	症状・障害と看護、主な疾患と看護2

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】・【3】・【5】（医学書院） 「周手術期看護論」　雄西　智恵美、秋元　典子　編集　ヌーヴェルヒロカワ
参考書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授業科目名	成人看護学Ⅳ	単位認定者	鈴木珠水
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学習到達目標	血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。		
関連科目	ここまでに履修したすべての専門科目。とくに、成人・老年看護学総論、成人看護学		
成績評価方法・基準	筆記試験 100%（各授業中の確認テストも含む）		
準備学習の内容	事前に指定教科書を読んでおくこと。		

回	講義題目	講義内容
	（鈴木珠水）	
1	臨床看護学総論 1	慢性疾患患者の看護
	（萩原英子）	
2	臨床看護学総論 2	がん患者の看護
	（鈴木珠水）	
3	内分泌代謝疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
4	内分泌代謝疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、糖尿病と看護 1
5	内分泌代謝疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、糖尿病と看護 2
	（及川洋）	
6	感覚器疾患患者の看護	観察とアセスメント、検査・治療と看護
	（鈴木珠水）	
7	腎・泌尿器疾患患者の看護 1	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
8	腎・泌尿器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
9	腎・泌尿器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護
	（牛込三和子）	
10	神経系疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
11	神経系疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
12	神経系疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
13	膠原病患者の看護	症状・障害と看護、主な疾患と看護
	（萩原英子）	
14	血液・造血器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
15	血液・造血器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】－【15】　医学書院
参考書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の成り立ち等において使用したテキスト

授業科目名	成人看護学Ⅴ	単位認定者	酒井美絵子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み sakai@paz.ac.jp
科目の目的	クリティカル期および周手術期看護の考え方を理解するとともに、患者・家族の心理、病態と身体反応、想定される看護問題と看護活動に関する理解を深める。		
学習到達目標	1. クリティカル期、周手術期看護の考え方が理解できる。 2. クリティカル期、周手術期にある患者・家族の心理的特徴と看護援助が理解できる。 3. クリティカル期、周手術期看護における病態と身体反応が理解できる。 4. クリティカル期、周手術期看護における看護問題が理解できる。 5. 術後合併症の理解とその予防のための看護援助が理解できる。 6. 術式による特徴的な看護が理解できる。 7. 術中・術後の身体反応と回復過程が理解できる。		
関連科目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人および老年看護学総論、成人看護学		
成績評価方法・基準	筆記試験100%		
準備学習の内容	指定教科書を読んでおくこと。		

回	講義題目	講義内容
		(酒井，萩原，小池，及川で担当)
1	クリティカルケア看護総論１	クリティカル期の概要と病態の理解　(酒井)
2	クリティカルケア看護総論２	クリティカル期にある人の病態と看護　(酒井)
3	周手術期看護総論	周手術期看護の考え方と理解　(酒井)
4	術前・術中看護	手術に向けた準備と術中の看護　(小池)
5	術後看護１	術後合併症と予防のための看護技術　(小池)
6	術後看護２	術後合併症の予防と看護の実際(ICUにおける看護)　(及川)
7	周手術期看護各論１	開腹術(消化器：食道・胃)を受ける人の看護　(酒井)
8	周手術期看護各論２	開腹術(消化器：腸)を受ける人の看護　(酒井)
9	周手術期看護各論３	開腹術(消化器：肝・膵)を受ける人の看護　(酒井)
10	周手術期看護各論４	開頭術(脳)を受ける人の看護　(小池)
11	周手術期看護各論５	開胸術(心疾患)を受ける人の看護　(小池)
12	周手術期看護各論６	運動器の手術を受ける人の看護　(萩原)
13	周手術期看護各論７	運動器の手術を受ける人の看護　(萩原)
14	周手術期看護各論８	女性生殖器の手術を受ける人の看護　(萩原)
15	周手術期看護各論９	女性生殖器の手術を受ける人の看護　(萩原)

教科書	「周手術期看護論」雄西智恵美，秋元典子編集　ヌーヴェルヒロカワ
参考書	系統看護学講座　成人看護学【２】～【10】医学書院

授業科目名	成人看護学演習	単位認定者	鈴木　珠水
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、グループワーク、演習	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科目の目的	1. 2年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。		
学習到達目標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。		
関連科目	基礎看護学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち、成人看護学		
成績評価方法・基準	定期試験 70%, 提出物得点 30%,		
準備学習の内容	看護過程演習では事前に配布された事例を読み、課題を行うこと。 技術演習では、その日行う技術に関する配布資料を事前学習してくること。		

回	講義題目	講義内容
		（牛込、酒井、鈴木、萩原、小池で担当）
1	看護過程演習　1	看護過程の展開について―看護問題・看護目標の抽出
2	看護過程演習　2	看護記録の書き方―慢性期の事例を使っての看護展開
3	看護過程演習　3	看護過程の展開について―看護問題・看護目標の抽出
4	看護過程演習　4	看護記録の書き方―急性期の事例を使っての看護展開
5	看護過程演習　5	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する
6	看護過程演習　6	グループ発表と討論
7	看護技術演習　1	循環管理；12誘導心電図、患者監視装置、輸液ポンプ・シリンジポンプ
8	看護技術演習　2	
9	看護技術演習　3	呼吸管理；気管内吸引、低圧持続吸引、NIPPV、HOT、ネブライザー
10	看護技術演習　4	
11	看護技術演習　5	栄養管理：ストーマケア、血糖測定、CV管理
12	看護技術演習　6	
13	看護技術演習　7	各看護技術の演習、確認（呼吸、循環、栄養）
14	看護技術演習　8	
15	看護技術演習　9	

教科書	系統看護学講座　成人看護学【2】－【15】　医学書院 決定版　ビジュアル　臨床看護技術　照林社
参考書	看護診断ハンドブック　第8版　医学書院, カルペニート 看護過程・看護診断入門―概念マップと看護計画の作成 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　ヌーベルヒロカワ パーフェクト臨床実習ガイド　成人看護実習ガイドⅠ・Ⅱ　照林社

授業科目名	成人看護学特論	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後、昼休み
科目の目的	疾患をもつ成人期にある人々の看護課題について理解を深め、また、現場の実践活動から看護支援方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 患者のQOLの視点から看護の課題を理解する。 2. 専門性を持って働く看護師の活動を理解する。		
関連科目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、成人看護学実習、看護管理学		
成績評価方法・基準	提出物得点100%		
準備学習の内容	特になし		

回	講義題目	講義内容
1	（牛込三和子） 神経難病療養者のQOLと看護	神経難病療養者の療養問題、病気の進行と療養者のQOL、意思決定支援と看護の課題を理解する。
2	（酒井美絵子） 食事摂取に関するQOLと看護	食事摂取が困難になることの意味を考え、看護の課題を理解する。
3	（鈴木珠水） 環境保健・環境と看護	環境が人間にもたらす影響と、その環境に対して不耐状態の患者が増加している意味を考え、看護の課題を理解する。
4	（未定） 専門看護の実践1	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。（がん看護関係のプロフェショナルナース）
5	専門看護の実践2	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。（集中ケアの認定看護師）
6	専門看護の実践3	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。（感染管理の認定看護師）
7	専門看護の実践4	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。（難病相談支援センター相談支援員の保健師）
8	専門看護の実践5	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。（エイズ治療・研究開発センター　看護支援調整官）

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	適宜紹介する。

授業科目名	老年看護学総論	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。		
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。		
関連科目	１年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（80%）、演習レポート（10%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化
4	老化疑似体験①	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
5	老化疑似体験②	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割
8	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向 2011/2012」（厚生統計協会）

授業科目名	老年看護学Ⅰ	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。		
関連科目	老年看護学総論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（70%）、レポート（20%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化（認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能）
2	高齢者の症候①	不眠、難聴、視力障害
3	高齢者の症候②	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症
4	高齢者の疾患①	認知症
5	高齢者の疾患②	精神・神経疾患（せん妄、うつ病）
6	高齢者の疾患③	精神・神経疾患（脳血管障害、パーキンソン病）
7	高齢者の疾患④	循環器疾患（虚血性心疾患、心不全）
8	高齢者の疾患⑤	呼吸器疾患（肺炎、閉塞性肺疾患、結核）
9	高齢者の疾患⑥	腎・泌尿器疾患（腎不全、前立腺肥大症）
10	高齢者の疾患⑦	運動器疾患（大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆）
11	高齢者の疾患⑧	皮膚・感覚器疾患（皮膚掻痒症、疥癬、白内障）
12	高齢者の疾患⑨	感染症（インフルエンザ、食中毒）
13	高齢者と治療①	高齢者と薬物療法
14	高齢者と治療②	高齢者と手術療法
15	高齢者と治療③	高齢者とリハビリテーション

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論」佐々木英忠（医学書院）
参考書	

授業科目名	老年看護学Ⅱ	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	高齢者の健康の維持･増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。		
学習到達目標	1. 高齢者の健康の維持･増進のための支援･教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド･オブ･ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、基礎看護学、成人看護学		
成績評価方法・基準	ミニテスト・テスト（70%）、レポート（20%）、平常点（10%）		
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	健康の維持・増進活動①	食生活、排泄、清潔
2	健康の維持・増進活動②	歩行・移動、活動と休息
3	健康の維持・増進活動③	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ
4	老年期の看護問題①	廃用症候群、転倒
5	老年期の看護問題②	摂食・嚥下障害
6	老年期の看護問題③	排尿障害、排便障害
7	老年期の看護問題④	褥瘡、ドライスキン
8	老年期の看護問題⑤	認知症高齢者のケア、成年後見制度
9	老年期の看護問題⑥	事故予防と救急時の対応
10	老年期の看護問題⑦	その他の看護問題
11	エンド・オブ・ライフケア①	終末期にある高齢者と家族
12	エンド・オブ・ライフケア②	死後の処置（演習含む）
13	高齢者のアセスメント技術①	健康歴の聴取、認知機能
14	高齢者のアセスメント技術②	身体機能
15	高齢者のアセスメント技術③	フィジカルアセスメント（演習含む）

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論」佐々木英忠（医学書院） 「写真でわかる基礎看護技術２」村上美好（インターメディカ）
参考書	

授業科目名	老年看護学演習	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	演習、講義	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。		
学習到達目標	1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。 2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、基礎看護学		
成績評価方法・基準	ミニレポート・平常点35%、グループワーク成果（15%）レポート、技術・知識テスト（50%）		
準備学習の内容	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。		

回	講義題目	講義内容
1	老年期に特徴的な疾患と看護	認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折の基本的知識と看護の確認
2	看護過程の展開①	事例の概要、グループワーク①（事例内容の確認）
3	看護過程の展開②	グループワーク②（情報整理）
4	看護過程の展開③	グループワーク③（アセスメント、関連図作成）
5	看護過程の展開④	グループワーク④（計画立案、まとめ）
6	看護過程の展開⑤	グループワークの成果発表、討議
7	高齢者への援助技術①	食事
8	高齢者への援助技術②	経管栄養
9	高齢者への援助技術③	口腔ケア
10	高齢者への援助技術④	移乗、活動
11	高齢者への援助技術⑤	体位、褥瘡予防
12	高齢者への援助技術⑥	排泄ケア
13	高齢者への援助技術⑦	技術の復習
14	高齢者への援助技術⑧	技術テスト
15	高齢者への援助技術⑨	看護計画・援助技術・評価

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」北川公子（医学書院）
参考書	「生活機能からみた老年看護過程」山田律子（医学書院） 「写真でわかる基礎看護技術１，２」村上美好（インターメディカ）

授業科目名	老年看護学特論	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み
科目の目的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。		
学習到達目標	1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について理解する。 2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について学習する。 3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について学習する。 4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習		
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)		
準備学習の内容	担当部分のプレゼンテーション準備		

回	講義題目	講義内容
1	コースガイダンス	高齢者と健康、老年看護学に求められる今日的課題
2	高齢者の健康段階と看護のかかわり	高齢者の健康段階と看護学的課題の提示
3	課題の提示と討議①	健康寿命とヘルスプロモーション
4	課題の提示と討議②	入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題
5	課題の提示と討議③	高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題
6	課題の提示と討議④	高齢者虐待の問題
7	課題の提示と討議⑤	高齢者の摂食障害と胃瘻の問題
8	まとめ	高齢者ケアにおける看護職の役割と責務

教科書	使用しない。
参考書	随時紹介する。

授業科目名	小児看護学総論	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	基本的には 月～木曜日の10：00～17：00
科目の目的	成長発達過程にある子どもと家族の特徴を理解し、次世代を担う子どもと家族の健康問題解決のための方略について考察することを目的とする。		
学習到達目標	1. 子どもの成長発達を理解できる。 2. 子どもと家族の生活を理解できる。 3. 子どもを育む環境を理解できる。 4. 子どもと家族の健康生活のための方略について考察することができる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験80%、講義への参加度20%		
準備学習の内容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、および専門基礎の臨床及び地域科目群（特に発達心理学、栄養学）を復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	子どもの特徴 乳児期の子どもの成長発達と看護	成長発達の原則、乳児期の特徴と発達課題、乳児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、乳児期によく見られる健康問題
3 4	幼児期の子どもの成長発達と看護	幼児期の特徴と発達課題、幼児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、幼児期によく見られる健康問題
5	学童期、思春期の成長発達と看護	学童期の特徴と発達課題、思春期の特徴と発達課題、学童期・思春期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、学童期・思春期によく見られる健康問題と学校保健
6	子どものいる家族の生活	乳幼児期の子どもを養育する家族の現状、乳幼児期の子どもを養育する家族の課題と支援
7	子どもを育む環境	わが国の母子保健の現状、わが国の母子保健施策の動向、現代の子どもを取り巻く環境の変化
8	まとめ	1～7回講義内容のまとめ

教科書	1.「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2011.
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学Ⅰ	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	基本的には 月～木曜日の 10：00～17：00
科目の目的	小児期に多く見られる健康障害の特徴と治療法を理解し、成長発達過程に健康障害を受けることによる生涯にわたる影響について学ぶことを目的とする。		
学習到達目標	1. 子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムが理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療が理解できる。 3. キャリーオーバーや成育医療について理解できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験 80%、講義への参加度 20%		
準備学習の内容	専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）を復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	子どもと病気,子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴（潜伏期、急性期、回復期など）、ウイルス感染症、細菌感染症、その他の感染症
3 4	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病
5 6	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性・後天性心疾患、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症、子どもの全身麻酔と手術療法
7 8	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、血液疾患
9 10	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	腎・生殖器・生殖器疾患、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症、内分泌疾患
11 12	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患、運動器疾患、染色体異常
13 14	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患	低出生体重児の疾患、倫理的課題、子どもの主な事故・外傷と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD（注意欠陥多動性障害）、不登校、摂食障害、児童虐待
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学［2］小児臨床看護各論 第 12 版」奈良間美保他著（医学書院）2010
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学Ⅱ	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	基本的には 月～木曜日の 10：00～17：00
科目の目的	成長発達過程にある子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受け、どのように適応しようとしているのかを理解し、子どもに起りやすい健康障害に対する有効な介入方法について学ぶことを目的とする。		
学習到達目標	1. 子どもの権利と小児看護の理念について理解できる。 2. 健康障害が、子どもと家族に与える影響について理解できる。 3. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への参加度 20%		
準備学習の内容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、および専門基礎の臨床及び地域科目群（特に発達心理学、栄養学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習しておくこと		

回	講義題目	講義内容
1 2	子どもの権利と小児看護の理念	小児看護と倫理、子どもの人権、子どもの最善の利益、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、プリパレーション
3 4 5	プリパレーション演習	テーマに基づいてプレパレーションを計画、作成、ロールプレイを実施する
6 7	健康障害が子どもや家族に及ぼす影響	子どもの病気の理解、病気や入院に伴う子どものストレスと家族のストレス、子どものストレス対処に対する支援、家族のストレス対処に対する支援
8 9	外来における子どもと家族の看護	小児外来の種類、一般外来における看護、小児救急外来における看護、トリアージ
10 11	急性期にある子どもと家族の看護	急性期にある子どもと家族の特徴、発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護、痙攣時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護、急性期にある子どもの家族に対する看護
12	救急処置が必要な子どもと家族の看護	救急を必要とする主な状況と処置、子どもの一次救急救命処置
13 14	慢性期にある子どもと家族の看護	小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性期にある子どもと家族の特徴、慢性期にある子どもと家族のエンパワーメントを支援する看護
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教科書	1.「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2011.
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学Ⅲ	単位認定者	野田智子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	基本的には 月～木曜日の 10：00～17：00
科目の目的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と、看護援助技術について学ぶことを目的とする。		
学習到達目標	1. 小児期に特徴的な健康障害を持つ子どもと家族の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、ケアプランの作成ができる。 2. 成長発達過程にある子どもと家族に応じた看護技術が実施できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への参加度 20%		
準備学習の内容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、および専門基礎地域科目群（発達心理学、栄養学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱを復習しておくこと また、講義と並行してバーチャル子育てを行うので毎回準備しておくこと		

回	講義題目	講義内容
1 2	小児の看護技術①	バイタルサインの測定と評価、身体計測と評価、発達の観察と評価、
3	小児の看護技術②	採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、経口与薬、輸液管理
4	小児の看護技術③	おむつ交換、排泄自立への援助、清拭、臀部浴、
5	小児の看護技術④	抱っこ、授乳、乳幼児の食事援助技術、口腔ケア
6 7	先天的な問題を持つ子どもと家族の看護展開	ファロー四徴症の子どもと家族の看護過程の展開
8 9	小児がんの子どもと家族の看護展開	白血病の子どもと家族の看護過程の展開
10 11	慢性期にある子どもと家族の看護過程の展開	ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護過程の展開
12	ハイリスク新生児と看護	NICU、GCU 看護の実際
13	心身障害のある子どもと看護	療育の実際
14	演習	ベッド柵の取り扱い、抱っこ、バイタルサインの測定、身体計測、授乳
15	まとめ	1～14 回までの講義と演習内容のまとめ

教科書	1．「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2011. 2．「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2011. 3．「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学［2］小児臨床看護各論 第 12 版」奈良間美保他著（医学書院）2010.
参考書	必要時提示する

授業科目名	小児看護学特論	単位認定者	野田智子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	基本的には 月～木曜日の10：00～17：00
科目の目的	発達障害、児童虐待等、近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療･保健･福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。		
学習到達目標	1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護といった観点で考察することができる。 2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験40%、演習等による課題提出40%、講義・演習への参加度20%		
準備学習の内容	配布した資料を読んでおくこと なお、講義の前に国家試験対策の問題を行うので解けなかったところは復習しておくこと		

回	講義題目	講義内容
1	ガイダンス	主に小児のメンタルヘルスと関連した健康問題を取り上げて講義、演習する予定である。（以下の内容を予定している）
2 3	子どもの健康問題に関する講義と演習①	周産期現場、保育現場、学校現場からの健康問題について
4 5	子どもの健康問題に関する講義と演習②	発達障害について
6 7	子どもの健康問題に関する講義と演習③	児童虐待について
8	まとめ	1～7回講義内容のまとめ

教科書	特に指定しない。毎回資料を配布する
参考書	必要時提示する

授業科目名	母性看護学総論	単位認定者	早川　有子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 14時―15時（早川研究室）
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。		
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。		
関連科目	教養科目群―生命倫理　家族学 専門基礎科目群―　解剖学Ⅰ　解剖学Ⅱ　生理学　栄養学　免疫・感染症学　疾病の成り立ち 薬理学 専門科目群―看護の専門科目		
成績評価方法・基準	試験 100%		
準備学習の内容	母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。		

回	講義題目	講義内容
1	母性看護の概念	母性（父性）とは、セクシュアリテイー リプロダクティブヘルツ／ライツ ジェンダーなど
2	母性看護の機能と役割	母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望
3	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策を学ぶ。
4-5	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能　女性外性器・内性器 男性生殖器 女性生殖器の機能　月経周期　調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化 ＊女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 内分泌・健康障害など
	受胎のメカニズム	受胎のメカニズム 染色体・遺伝子
	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン
6-8	女性のライフサイクルと健康	女性のライフサイクルの変化―高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル ・高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期 ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期

教科書	「母性看護学Ⅰ　母性看護学概論」森恵美他（医学書院）
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学Ⅰ	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義（グループワーク含む）	オフィス・アワー	火曜日　14時―15時(早川研究室)
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。		
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。		
関連科目	教養科目群：生命倫理　家族学　環境学　生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学　免疫・感染症学　社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）		
成績評価方法・基準	試験　100%		
準備学習の内容	母子の健康問題に関連ある因子について、課題を持って講義に臨む。		

回	講義題目	講義内容
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。
2 － 7	母子保健と環境 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など ・身体的要因：栄養、喫煙、飲酒など
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。
9 － 13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。

教科書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル　早川有子他　著（医学書院）
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学Ⅱ	単位認定者	中島久美子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義　演習	オフィス・アワー	火曜日： 12時～13時（中島研究室）
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。		
学習到達目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦、及び新生児の経過とその看護について理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖、およびその看護について理解できる。 4. 母子とその家族への支援について理解できる。 5. 母子看護に必要な基礎的技術を習得する。		
関連科目	教養科目群：　生命倫理　家族学　環境学　生物学基礎 専門基礎科目群：生理学　生化学　発達心理学　免疫・感染症学　社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）		
成績評価方法・基準	出席状況（講義に2/3以上の出席で試験可）、小テスト（30%）、定期試験（70%）にて評価する。		
準備学習の内容	母性看護学総論、母性看護学Ⅰの講義内容の復習が重要。特に周産期医療とその看護について、課題をもって講義に臨んでほしい。		

回	講義題目	講義内容
1-2	妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過	・妊娠の成立、胎児の発育と発達について ・妊娠の経過（からだと心の変化：妊婦・胎児）
3-4	妊婦の心理社会的側面と看護	・妊婦の心理社会的側面のアセスメント ・妊婦の看護（健康管理・保健指導）、バースプラン
5-6	妊娠期の健康問題とその看護	・ハイリスク妊娠とその看護 ・流産・早産　・妊娠高血圧症候群　・前置胎盤・常位胎盤早期剥離 ・多胎妊娠
7-8	分娩の生理と経過、産婦の看護	・正常分娩の生理と経過 ・産婦の看護（分娩経過に伴う看護、産婦とその家族）
9-10	異常分娩、産婦の心理社会的側面と看護	・帝王切開　・吸引・鉗子分娩　・無痛分娩 ・分娩監視装置（装着と判定） ・産婦の心理社会的側面のアセスメント
11-12	妊婦・産婦の技術（演習）	（１）レオポルド触診・腹囲・子宮底測定 （２）分娩監視装置（ＮＳＴ）の取り扱いと判定 （３）産婦の看護：産痛緩和法、補助動作など
13-14	産褥経過、褥婦の心理社会的側面と看護	・産褥の経過（からだと心の変化） ・褥婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援
15-16	新生児経過と新生児の看護	・新生児の経過と特徴、看護
17	新生児のフィジカルアセスメント	・新生児のフィジカルアセスメント
18	新生児期の健康問題	・健康障害のある新生児の看護について ・胎児仮死、低出生体重児、呼吸障害、低血糖、黄疸、先天異常等
19-20	母乳育児支援	・乳汁分泌のメカニズム、母乳育児支援 ・親子の絆とアタッチメント
21-22	褥婦・新生児の技術（演習）	（１）新生児のフィジカルアセスメント （２）沐浴 （３）子宮復古状態（子宮収縮、外陰部観察）・乳房の触診、授乳介助

回	講　義　題　目	講　義　内　容
23-24	人間の性と生殖	・不妊治療 ・不妊治療と看護（生殖をめぐる倫理含む） ・家族計画・人工妊娠中絶と看護
25-26	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習１）	・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方 ・事例による看護過程の展開（１）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）
27-28	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習１）	・事例による看護過程の展開（２）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）
29-30	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習１）	・事例による看護過程の展開（３）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）

教　科　書	母性看護学各論　母性看護学Ⅱ（医学書院）
参　考　書	母性の心理社会的側面と看護ケア（医学書院）　病気が見える【産科】(medicmedia)

授業科目名	母性看護学特論	単位認定者	早川　有子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 14 時―15 時（早川研究室）
科目の目的	最近の母性看護の動向を学ぶことを通して、発展的視野で母性看護の役割と今後の課題を考える。		
学習到達目標	1. 母性看護の役割と意義を考えることができる。 2. 母性看護を支援する社会システム・保健医療システムを理解する。 3. 母性看護の現状から今後の課題が考えられる。		
関連科目	母性・小児看護学、心理学、教育学、生命倫理、家族学、地域社会学、環境学、健康管理論ほか		
成績評価方法・基準	課題に対するレポート 100%		
準備学習の内容	母子に関連ある新聞記事を事前に調べ、持参して講義に参加すること		

回	講義題目	講義内容
1 － 2	母性看護の現状	・母性看護学特論の講義概要 ・母子に関する現状と課題を最近のトピックス（雑誌・新聞など）から考える。
3	母子関連の論文	・母子関連の論文（雑誌等）を読み、論文の構成・論文の意義（内容）などを考える。
4 － 6	母子を取り巻く環境	・母子を取り巻く環境を通して母子の問題を考える。 グループ学習
7 － 8	母乳育児支援	・母乳育児について考える。 母乳の味 母乳とミルク 母乳と食事 ＊味センサーを使用しミニ実験をする。

教科書	使用しない
参考書	必要時提示する

授業科目名	精神看護学総論	単位認定者	小林　信
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 16：30～17：30
科目の目的	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造、人格の発達過程について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。		
学習到達目標	1. 精神の健康とそれに影響を与える要素を知る。 2. 精神の機能と構造を理解する。 3. 人格の成長発達過程を理解する。		
関連科目	「発達心理学」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、授業の中で指示した提出課題（20%）によって評価する。		
準備学習の内容	自分（学生）自身の人格の発達とこころの健康について振り返って考えておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	精神保健とは	精神の健康の基本的な考え方
2	精神の機能と構造	精神力動論における精神の機能（意識）と構造 フロイトの精神力動論を中心に
3	欲求と防衛機制	人間の欲求、および防衛機制の働きと種類 マズローのニード論、適応機制と防衛機制、感情転移
4	健康な人格とは	健康な人格とその客観的尺度 心理検査の種類と用法を中心に
5	人格の成長と発達	精神および人格の成長発達とその課題 エリクソンの発達課題（乳幼児～青年期）を中心に
6	人間とストレス	ストレスとは何か、またそのコーピング(対処法) ラザルスのストレス対処理論を中心に
7	人間と危機状況	危機理論と危機介入 フィンクのモデルとアギュレラの理論を中心に
8	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[１]」武井麻子（医学書院）
参考書	「精神分析学入門」小此木 啓吾他（有斐閣） 「ライフサイクル、その完結」E.Hエリクソン（みすず書房）

授業科目名	精神看護学Ⅰ	単位認定者	小林　信
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	火曜日 16：30～17：30
科目の目的	精神障害を生物的、心理的、社会・文化的に説明することができ、その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。		
学習到達目標	1. 精神看護の対象を正しく理解できる。 2. 精神医療の歴史を把握し、現代社会における問題や課題を理解できる。 3. 精神の機能とそこに生じる症状を説明できる。 4. 精神障害および精神疾患の種類と特徴を理解できる。 5. 精神に障害をもつ人に必要な看護援助を科学的に説明できる。		
関連科目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅱ」、「心理学」「地域社会学」「疾病の成り立ち」 「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護過程論」		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、授業の中で指示した提出課題（20%）よって評価する。		
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講義題目	講義内容
1	精神看護の対象	精神医療および精神看護の対象の理解
2 3	精神医療・看護の歴史	精神医療と看護の歴史的変遷とその特殊性 海外の歴史と日本の歴史
4 5	精神保健福祉法とは	精神保健福祉法の概要 精神科における入院形態、行動制限、権利擁護および障害者自立支援法、医療観察法などの関連法規
6	精神科における人権擁護と看護倫理	精神看護における倫理とインフォームド･コンセント 行動制限（隔離と拘束）を中心に
7	リエゾン精神看護とは	リエゾン・コンサルテーション精神看護とは
8 9	精神の機能と症状	精神の機能および精神症状の種類と特徴
10	精神障害の分類	精神障害および疾患の分類（ICD-10 と DSMIV）
11 12	疾患と看護① 統合失調症	統合失調症の特徴と治療およびその看護（幻覚妄想状態と無為自閉、認知障害）
13 14	疾患と看護② 感情（気分）障害	感情障害（大うつ病と双極性障害を中心に）の特徴と治療およびその看護（うつ状態と躁状態、および自殺企図）
15 16	疾患と看護③ 神経症性障害、ストレス関連性障害	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、心因反応、解離性障害の特徴と治療およびその看護
17	疾患と看護④ 摂食障害	摂食障害の特徴と治療およびその看護
18	疾患と看護⑤ 人格障害	人格障害（境界性人格障害を中心に）の特徴と治療およびその看護

回	講　義　題　目	講　義　内　容
19	疾患と看護⑥ 物質依存症	物質依存症（アルコール依存症を中心に）の特徴と治療およびその看護
20	疾患と看護⑦ 発達障害、精神遅滞	発達障害と精神発達遅滞の特徴と治療およびその看護
21	疾患と看護⑧ 器質性精神障害	器質性精神障害（認知症、症状精神病など）の特徴と治療およびその看護
22	精神科で行われる 治療法①	精神科で行われる精神療法と身体療法、および看護者の役割
23	精神科で行われる 治療法②	作業療法、レクリエーション療法、SST、心理教育など
24	精神看護における援助方法①	患者-看護者関係とその展開（ペプロー理論）
25 26 27	精神看護における援助方法②	対象の自己決定と自律を促す援助（オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）
28 29	事例演習	事例を用いた看護過程の展開 グループワークと発表
30	まとめ	

教　科　書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学［１］」武井麻子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学［２］」武井麻子（医学書院）
参　考　書	「新・看護者のための精神保健福祉法Ｑ＆Ａ」日本精神科看護技術協会監修（中央法規） 「ペプロー看護論」A.W オトゥール他（医学書院） 「セルフケア概念と看護実践」南裕子他（へるす出版）

授業科目名	精神看護学Ⅱ	単位認定者	小林　信
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	火曜日 16：30～17：30
科目の目的	精神障害に関する社会制度と関連法規を学び、地域生活者としての精神障害者を支える看護師の機能と役割を習得する。		
学習到達目標	1. 精神科リハビリテーションの概念が理解できる。 2. 精神障害に関する社会資源とそのシステムが理解できる。 3. 地域で生活する精神障害者とその家族の抱える問題とそのサポートの在り方が理解できる。		
関連科目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅰ」、「社会福祉・社会保障制度論」、「地域保健行政」、「社会福祉・地域サービス論」		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、授業の中で指示した提出課題（20%）よって評価する。		
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講義題目	講義内容
1	精神科リハビリテーションとは	精神科におけるリハビリテーションの概念と症状コントロール
2	社会制度と社会資源	精神障害者が利用できる社会制度と社会資源について
3	地域精神看護の実際	保健師、精神訪問看護、精神保健福祉相談員の活動
4	薬物療法と看護①	中枢神経系における情報伝達の仕組みと向精神薬の作用機序、抗精神病薬、抗うつ薬の作用と副作用
5	薬物療法と看護②	抗不安薬、その他の精神科薬の作用と副作用 精神科薬物療法における看護者の役割
6	当事者と語る	当事者（患者本人もしくは家族）と語る
7	家族支援・家族看護	精神障害者の家族支援と看護師の役割 高感情表出と心理教育を中心に
8	まとめ	

教科書	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学［１］」武井麻子（医学書院） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学［２］」武井麻子（医学書院）
参考書	「分裂病の少女の手記 改訂版」セシュエー（みすず書房） 「こころの病と生きる」若林菊男編（萌文社） 「精神保健福祉白書〈2011 年版〉」精神保健福祉白書編集委員会（中央法規）

授業科目名	地域看護学概論	単位認定者	矢島　正栄
対象学年	第　2　学年	学期	前期
単位数	2 単位（30 コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	授業の前後、昼休み
科目の目的	地域看護の概念と役割、地域の人々の健康を守る地域看護活動の方法について理解し、今後の保健師活動について展望する。		
学習到達目標	1. 地域看護の概念と歴史的変遷を説明できる。 2. 地域看護をめぐる保健医療福祉施策の概要と関係職種について説明できる。 3. 地域看護の法的基盤を説明できる。 4. 地域看護活動における倫理的態度を選択できる。 5. 地域看護の役割、活動の特徴と成立条件を説明できる。 6. 地域看護の対象と活動の場の特徴を説明できる。 7. 地域看護活動の方法を説明できる。		
関連科目	教養科目群:発達･行動･心理の各科目、人と社会･生活の各科目 専門基礎科目群:地域科目群の各科目 専門科目群の各科目		
成績評価方法・基準	試験(80 %)、平常点（20%）		
準備学習の内容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んで授業に臨んでください。		

回	講義題目	講義内容
1	地域看護の理念と目的	地域看護とは、公衆衛生と公衆衛生看護、公衆衛生看護と地域看護
2	地域看護の歴史１	欧米における地域看護の歴史、日本における地域看護の歴史１
3	地域看護の歴史２	日本における地域看護の歴史２
4	地域看護活動の原則と成立条件	地域看護の機能・役割、地域看護活動の原則と成立条件
5	保健師活動と法律、職業倫理	保健師の業務・責任等について定める法令とその内容、保健師に求められる職業倫理
6	地域看護活動と関係機関・関係職種	地域活動の過程で連携する関係機関・関係職種
7	地域看護の基本的な概念及び理論	地域看護に用いられる基本的な概念、理論とその活用
8	地域看護の対象	個人･家族･集団･地域のとらえ方、人間の発達段階と健康課題、家族の発達段階と健康課題
9	地域に暮らす人々の健康課題１	現代の日本における思春期、母子、子育てをめぐる健康課題
10	地域に暮らす人々の健康課題２	現代の日本における成人、高齢者をめぐる健康課題
11	地域に暮らす人々の健康課題３	現代の日本における精神保健、感染症対策、その他の健康課題
12	地域看護活動の場１	保健所、市町村における保健師の活動
13	地域看護活動の場２	在宅医療、介護・福祉分野における保健師の活動
14	地域看護の活動方法１	地域看護に用いられる技術
15	地域看護の活動方法２	地区活動の展開
16	まとめ	

回	講　義　題　目	講　義　内　容
	（学校保健）	
1	学校保健	学校保健の制度：教育関係法規、学校保健の領域
2		児童生徒の現代的健康課題、学校における保健教育
3		学校保健における組織活動：学校保健運営組織、学校保健計画
4		学校における保健管理（１）：学校環境衛生
5		学校における保健管理（２）：健康観察、健康診断
6		学校における保健管理（３）：疾病予防
7		学校における保健管理（４）：救急処置、健康相談
8		養護教諭制度の変遷、保健室経営と保健室経営計画
	（産業保健）	
1	産業保健・看護の発展経緯と重点課題の変遷	産業保健・看護の現状
2		産業保健を取り巻く環境の変化
3	産業保健・看護における主な健康課題と対策	産業保健に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と、今日のヘルスニーズ
4	産業保健・看護の制度とシステム	労働安全衛生法に関する法体系 労働衛生管理の基本（作業環境管理・作業管理・健康管理・衛生教育） 産業保健組織とスタッフの役割
5		健康支援を行う関連機関
6	特定健診・特定保健指導の制度と実際	健康保険組合の役割と特定保健指導の取り組みについて 特定保健指導の目的・実際・評価・改善

教　科　書	（地域保健） 「標準保健師講座1　地域看護学概論」奥山則子　他（医学書院） 「国民衛生の動向 2011/2012」（財団法人厚生統計協会） （学校保健） 学校保健・安全実務委員会：「新訂版　学校保健実務必携　第２次改訂版　第一法規　平成２１年 （産業保健） 地域看護活動論①　メディカルフレンド社　金川克子　平成 22 年版働く人の健康　全国労働衛生団体連合会 国民衛生の動向（最新のもの）
参　考　書	（産業保険） 看護職のための産業保健入門　保健文化社　森　晃爾

授業科目名	地域看護学Ⅰ	単位認定者	小林亜由美
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	前期：月 16:10～19:00 後期：月～水、金 16:10～19:00
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。		
学習到達目標	1. 健康相談/健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護学Ⅱ、地域看護学Ⅲ、地域看護学Ⅳ、地域看護学特論、カウンセリング		
成績評価方法・基準	試験(60%)、演習/レポート（40%）		
準備学習の内容	各回講義内容について教科書および国民衛生の動向を事前に読んでおくこと。健康相談/健康診査/家庭訪問演習および家族への保健指導を実施する前に、対象者の事前情報から把握できる健康課題や解決/改善方法について調べ理解しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	導入	オリエンテーション、地域看護の支援技術の特性
2	健康相談 1	健康相談の意義と目的、健康相談の対象
3	健康相談 2	健康相談の技術
4	健康相談 3	健康相談の実施方法
5	健康相談 4	健康相談の実施方法（演習）
6	健康相談 5	健康相談の実施方法（演習）
7	健康診査 1	健康診査の意義、目的、対象、方法
8	健康診査 2	健康診査事業の展開方法と保健師の役割
9	健康診査 3	健康診査の実施方法（演習）
10	健康診査 4	健康診査の実施方法（演習）
11	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論
12	健康教育 2	健康教育の対象・方法
13	健康教育 3	健康教育の展開過程１
14	健康教育 4	健康教育の展開過程２
15	健康教育 5	健康教育計画と指導案１
16	健康教育 6	健康教育計画と指導案２
17	健康教育 7	健康教育の評価１
18	健康教育 8	健康教育の評価２
19	家族保健指導	家族の発達課題、家族の持つ保健機能 家族の問題把握と診断、家族支援

回	講　義　題　目	講　義　内　容
20	保健指導計画	保健指導計画ならびに実施計画の立案（演習）
21	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象
22	家庭訪問 2	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導
23	家庭訪問 3	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法
24	家庭訪問 4	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方
25	家庭訪問 5	家庭訪問計画作成（演習）
26	家庭訪問 6	家庭訪問場面（演習）
27	家庭訪問 7	家庭訪問場面（演習）
28	地区組織活動 1	地区組織活動の意義と目的
29	地区組織活動 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用
30	地区組織活動 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方

教　科　書	「最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参　考　書	

授業科目名	地域看護学Ⅱ	単位認定者	矢島　正栄
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	授業の前後、昼休み
科目の目的	地域で生活する人々を捉える視点を学び、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を身につける。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を学ぶ。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。		
学習到達目標	1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えて記述できる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援する方法を考案できる。 3. 地域及び集団の健康管理のための計画を立案できる。 4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割を説明できる。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅲ		
成績評価方法・基準	試験（50%）、演習内容（50%）		
準備学習の内容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。		

回	講義題目	講義内容
1	地域保健活動の対象のとらえ方1	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造
2	地域保健活動の対象のとらえ方2	健康問題の構造
3	地域保健活動の対象のとらえ方3	現代日本人の生活と健康問題
4	地域保健活動の展開１ 地区把握	対象の健康課題への対処行動
5	地域保健活動の展開１ 地区把握	地区把握･問題発見の考え方と方法
6	地域保健活動の展開２ 地区診断	〃
7	地域保健活動の展開３ 活動方針･活動目標の設定	地区診断の目的と方法
8	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	活動方針･活動目標の考え方と盛り込むべき内容、優先順位の考え方
9	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス
10	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践と評価	必要量−稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加
11	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践と評価	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方 地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法
12	保健計画と保健師の活動１	
13	保健計画と保健師の活動２	保健計画とは

回	講　義　題　目	講　義　内　容
14	保健計画と保健師の 活動 3	保健計画の構成、保健計画の策定過程、保健計画を実現させるための条件・方法、保健計画の評価
	〈演習〉	
15 ～ 27	地区診断と地域保健活動計画作成演習	保健計画の策定・推進・評価における保健師の役割 施策化の考え方と保健師の役割 1. 目的 　地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。 2. 方法 1)対象地域:榛東村 2)内容:対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3)実施方法:グループ毎に母子、成人等の 1 領域を担当する。
28 29	地域保健活動計画報告・検討会	各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。 助言者:榛東村保健師
30	まとめ	

教　科　書	「最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向 2011/2012」（財団法人厚生統計協会）
参　考　書	

授業科目名	地域看護学Ⅲ	単位認定者	廣田幸子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	月曜：12：00~13：00
科目の目的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する。		
学習到達目標	1. 母子保健活動の理念と目的がわかる。 2. 母子が抱える健康課題の支援の方法がわかる。 3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、精神看護学総論		
成績評価方法・基準	試験(80%)・授業への参加度(20%)		
準備学習の内容	・地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかり定着させて臨んでください。 ・教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に参加してください。		

回	講義題目	講義内容
1	母子保健総論	母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷
2	母子保健総論	我が国の母子保健の水準
3	母子保健総論	我が国の母子保健施策の概要
4	母性保健論	思春期の保健指導
5	母性保健論	若い家族の保健指導
6	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導１
7	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導２
8	母性保健論	子育て期の保健指導、更年期の保健指導
9	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導１
10	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導２
11	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導３
12	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導４
13	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導５
14	小児保健論	障害児・小児慢性疾患児の保健指導
15	小児保健論	ハイリスク母子の保健指導

教科書	・「最新保健学講座 3 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・国民衛生の動向 2011/2012（財団法人厚生統計協会）
参考書	

授業科目名	地域看護学Ⅳ	単位認定者	小林亜由美
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義（オムニバス方式）	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	地域看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識・技術を習得する。また地域における健康管理体制について学ぶ。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。		
学習到達目標	1. 生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者（児）に関する保健活動の理念と目的が理解できる。 2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。 3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。		
関連科目	免疫・感染症学、公衆衛生学、疫学、老年看護学総論、老年看護学ⅠⅡ、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、歯科保健、社会福祉・社会保障制度論、精神看護学総論、精神看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護学Ⅰ～Ⅲ、地域保健行政、地域看護学特論		
成績評価方法・基準	定期試験 （成人保健 30%、高齢者保健 15%、感染症保健 20%、障害者保健/難病対策 15%、精神保健 20%）		
準備学習の内容	各回講義内容について教科書および国民衛生の動向を事前に読んでおくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	成人高齢者施策１	オリエンテーション、我が国の成人高齢者の健康問題と対策
2	成人高齢者施策２	健康増進対策：健康日本 21、健康増進法、新健康フロンティア戦略
3	成人高齢者施策３	特定健康診査と特定保健指導：高齢者の医療の確保に関する法律
4	成人高齢者施策４	要支援・要介護者対策：介護保険法
5	成人高齢者施策５	介護予防対策：介護保険法、新健康フロンティア戦略
6	成人保健活動１	メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導
7	成人保健活動２	栄養・食生活の保健指導
8	成人保健活動３	身体活動・運動の保健指導
9	成人保健活動４	がん対策
10	成人保健活動５	たばこ・アルコールの保健指導
11	成人保健活動６	自殺予防
12	成人保健活動７	口腔・歯科保健指導
13	精神保健１	精神保健福祉施策の歴史的変遷/精神保健福祉に関わる法律
14	精神保健２	ライフサイクルからみた精神保健/精神障害の診断基準/社会病理を背景とする精神的問題（虐待・ＤＶ・社会的引きこもり、薬物乱用、アルコール、摂食障害等の嗜癖・うつ状態・自殺等）
15	精神保健３	地域で生活する精神障害者の理解/精神障害者の社会復帰・福祉対策（自立支援給付・社会復帰施設・精神障害者保健福祉手帳等）　/精神保健福祉に関する行政とその役割（保健所と市町村の役割分担を含む）
16	精神保健４	(1)保健所・市町村保健師の活動: 地域精神保健福祉活動　/心の健康づくり（普及啓発）　/保健所・市町村における個別事例への相談と訪問指導の実際
17	精神保健５	(2)市町村保健師の活動 精神保健福祉相談の進め方/精神障害者社会復帰相談指導（ﾐﾆﾃﾞｲｹｱ活動）/　精神障害者家族会支援/保健所との連携等

回	講　義　題　目	講　義　内　容
18	精神保健６	(3)保健所保健師の活動 保健所と管内市町村との連携による活動の実際（市町村への協力・連携・技術支援）　/保健所管内の精神障害者の実態把握と医療費分析/ 精神障害者在宅支援事業の展開
19	精神保健７	事例展開
20	高齢者保健活動１	認知症高齢者の支援、ターミナルケア
21	高齢者保健活動２	高齢者虐待
22	感染症対策１	我が国の感染症対策の動向：感染症の予防及び感染症の患者に対する法律
23	感染症対策２	麻疹・インフルエンザ対策と保健活動
24	感染症対策３	食中毒対策と保健活動（腸管出血性大腸炎、ノロウィルス等）
25	感染症対策４	ＨＩＶ感染症/エイズ/性感染症対策と保健指導
26	感染症対策５	結核対策
27	感染症対策６	結核の保健活動
28	障害児（者）保健１	障害児（者）対策：障害者自立支援法
29	障害児（者）保健２	障害児（者）対策と保健活動
30	難病対策１	我が国の難病対策と保健活動

教　科　書	・「最新保健学講座 3 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「最新保健学講座 4 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動」金川克子編（メジカルフレンド社） ・「国民衛生の動向 2011/2012」（厚生統計協会）
参　考　書	

授業科目名	地域看護学特論	単位認定者	矢島　正栄
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習	オフィス・アワー	授業の前後、昼休み
科目の目的	学生が自ら健康教育を企画・運営・評価することをとおして、地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけの方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 集団教育の計画・実施・評価の一連の過程を実施できる。 2. 対象が健康を保持増進させる行動をとれるよう援助する方法を考案できる。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、地域看護学Ⅲ、地域看護学Ⅳ		
成績評価方法・基準	演習内容（60%）、レポート（40%）		
準備学習の内容	地域看護学Ⅰで学んだ健康教育の単元を十分復習してから臨んでください。		

回	講義題目	講義内容
1	オリエンテーション	1. 学習課題 1）集団教育の対象・テーマの選定 2）地域特性や対象のニーズに応じた教育の目的・目標設定 3）教育効果、対象の利便性及び実施者側の条件を考慮した計画立案 4）対象の主体的な参加を促進する方法の工夫 5）教育の効果を考えた会場設営や進行の方法の工夫 6）対象の生活の営みや理解状況を踏まえた指導案の作成 7）集団における教育的働きかけ 8）集団教育の中で行われる個別の教育的働きかけ 9）教育の効果を高める媒体の作成 10）行動化を促すための動機づけや条件づくりの方法の工夫 11）健康教育の評価計画の立案と評価の実施 2. 実施方法 5～7人のグループを編成し、グループ毎に地域住民を対象とする健康教育の計画立案、実施、評価を行う。 3. 演習内容 ・健康教育企画の立案（評価計画を含む） ・指導案の作成 ・教育媒体の作成 ・健康教育の実施準備 ・健康教育の実施 ・健康教育の評価
2～6	演習	
7・8	健康教育実施・評価	

教科書	「最新保健学講座２地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	

授業科目名	在宅看護概論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜:12:10～13:00(小笠原研究室)
科目の目的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。		
学習到達目標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。		
関連科目	成人看護学ⅠⅡ、老年看護学ⅠⅡ、小児看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護学ⅠⅡⅢ		
成績評価方法・基準	筆記試験（90%）・授業への参加度（10%）		
準備学習の内容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	在宅看護の特徴	在宅における看護活動　自立支援と看護　病状・病態の予測と予防　在宅療養者の権利保障　地域におけるケア提供機関
3	在宅療養者の権利保障と諸制度	在宅療養者の権利保障　在宅看護と諸制度　自己決定支援/権利擁護
4 5	在宅看護の展開	継続療養における在宅看護　在宅看護への接続・連携専門職者との連携　在宅看護成立の条件　退院計画と継続看護【退院指導と退院計画　プランの共有家族・患者の意思　退院計画実践方法】
6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴（理論と実際） 【家族の機能】【看護学における家族】
7	地域で療養する人々と社会資源	在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり　地域で療養する人を支える保健・医療・福祉　フォーマル・インフォーマルなサービスの活用
8	訪問看護ステーションの機能と役割	訪問看護ステーションの機能と役割　事業経営

教科書	「在宅看護論―実践をことばに」杉本正子・眞舩択子（ヌーベルヒロカワ） 「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院）
参考書	「最新保健学講座 5.地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動」金川　克子（メジカルフレンド社） 「国民衛生の動向」

授業科目名	在宅看護論Ⅰ	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	水曜:12:10～13:00(小笠原研究室)
科目の目的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 療養者および家族を支援するための在宅看護過程の展開方法を理解する。		
関連科目	成人看護学ⅠⅡ、老年看護学ⅠⅡ、小児看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護学ⅠⅡⅢ		
成績評価方法・基準	筆記試験（90%）・授業への参加度（10%）		
準備学習の内容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	在宅看護概論の確認	在宅看護の特徴　在宅療養者と家族看護
2	在宅看護の仕組み１	訪問看護ステーションの理解　訪問看護ステーションの法的枠組み　在宅看護にかかわる法規（健康保険法　介護保険法　障害者自立支援法）　介護保険の仕組みと利用 サービス開始までの流れ
3	在宅看護の仕組み２	介護保険における給付内容　居宅介護サービス　施設介護サービス　地域密着型介護サービス
4	在宅看護の仕組み３	介護保険法と関係職種の機能　介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割
5	他職種との連携１	チームケアの理解　在宅チームケアの意義　看護職同士の連携・協働　他職種との連携・協働　在宅チームケアの実際の理解　在宅チームケアにおける看護の役割の理解
6	他職種との連携２	ケアマネジメントと看護の役割　ケアマネジメントの概念　ケアマネジメントの過程　サービスの調整と実際
7	退院支援・退院調整	退院に関する患者・家族の意向 退院支援・退院調整のプロセス　仕組み　退院調整に関わる職種とその役割　医療機関・施設・地域の連携システム
8	在宅看護の展開	在宅看護過程展開のポイント　在宅看護過程の特徴

教科書	「在宅看護論―実践をことばに」杉本正子・眞舩択子（ヌーベルヒロカワ） 「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院）
参考書	「介護保険制度に関するパンフレット」（1冊200円程度）

授業科目名	在宅看護論Ⅱ	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位（30コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	水曜:12:10～13:00(小笠原研究室)
科目の目的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。		
学習到達目標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 基本的な生活援助の技術を習得する。 3. 特殊な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。 4. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。		
関連科目	歯科保健、成人看護学ⅠⅡ、老年看護学ⅠⅡ、小児看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護学ⅠⅡⅢ		
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、レポート（10%）、授業・演習への参加度（10%）		
準備学習の内容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 2	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰの確認	在宅看護の特徴　在宅看護の展開　在宅療養者と家族看護
3 4	在宅療養者の日常生活援助	在宅看護援助の基本　具体的援助内容　リハビリテーションの援助内容
5	在宅療養者の症状・状態別の看護1	脳血管疾患者の在宅看護　脳血管疾患の看護過程　障害の受容
6	在宅療養者の症状・状態別の看護2	精神障害者の在宅看護 精神保健医療福祉の状況　精神障害者の在宅看護の特徴　在宅精神障害者のセルフケア援助 感染症患者の在宅看護 在宅における感染症患者の看護　主な感染症と看護
7	在宅療養者の症状・状態別の看護3	小児の在宅看護 看護の対象と医療的ケア　家族介護　在宅小児の訪問看護の現状
8	在宅療養者の症状・状態別の看護4	難病患者の在宅看護 難病対策要綱　医療依存度のアセスメント　急性憎悪の早期発見と対応　難病における自己決定への支援　社会資源の活用　在宅保健・医療・看護援助チーム医療・調整　在宅ケアの評価
9	在宅療養者の症状・状態別の看護5	独居の療養者に対する在宅看護 認知症患者の在宅看護 認知症の症状　認知症高齢者の現状と今後　認知症患者とのコミュニケーション　認知症高齢者・家族への支援
10	特殊な技術をともなう在宅看護1	在宅中心静脈栄養 在宅中心静脈栄養の適応条件　在宅中心静脈患者の必要カロリー　看護の実際
11	特殊な技術をともなう在宅看護2	経管栄養 経管栄養とは　経管栄養の対象者　アセスメント
12	特殊な技術をともなう在宅看護3	膀胱留置カテーテル

回	講　義　題　目	講　義　内　容
13	特殊な技術をともなう在宅看護 4	在宅酸素療法
14	特殊な技術をともなう在宅看護 5	在宅人工呼吸療法　吸引・気管切開のケア
15	特殊な技術をともなう在宅看護 6	在宅ターミナルケア　がん患者の痛みの治療法　疼痛コントロール
16	特殊な技術をともなう在宅看護 7	
17	特殊な技術をともなう在宅看護 8	ストーマケア ストーマの種類と特徴　ストーマの管理方法　ストーマの合併症
18	特殊な技術をともなう在宅看護 9	褥瘡ケア 褥瘡予防のためのリスクアセスメント　予防用具　栄養　スキンケア
19 ｜ 28	在宅看護過程の展開 1-4	演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴 ＜演習内容＞ 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会 グループ毎に、演習およびグループワークを行う。 詳細は、演習時に説明する。
29 30	まとめ	

教　科　書	「在宅看護論―実践をことばに」杉本正子・眞舩択子（ヌーベルヒロカワ） 「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院）
参　考　書	「在宅看護･介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案」大野絢子（上武大学出版会） 「介護保険制度に関するパンフレット」 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）

授業科目名	臨床看護管理学	単位認定者	酒井美絵子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み sakai@paz.ac.jp
科目の目的	医学の発展に伴う高度医療、情報技術の発達、EBM、個人情報の擁護など、変化していく社会や人々のニーズと環境を適応させながら、高い水準のケアを提供するための管理の方法を学ぶ。		
学習到達目標	1. 看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法を理解できる。 2. 病院における安全管理のシステムと実際を理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をしていくのか考えられる。		
関連科目	法学，看護学概論		
成績評価方法・基準	授業への参加状況 10%　　筆記試験 90%		
準備学習の内容	テキストや配布資料を読んでおくこと		

回	講義題目	講義内容
1	看護とマネジメント	オリエンテーション 看護とマネジメント：マネジメントの基礎，看護管理過程，看護職の機能
2	看護関係法令	看護をとりまく諸制度：看護の定義，保健師助産師看護師法，医療法 医療職の法律
3	ケアのマネジメント	ケアのマネジメント：看護職の協働・他職種との協働
4	安全管理	患者の権利の尊重、医療安全，情報管理
5	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメントと必要な知識技術：組織，協働，技術
6	看護の経済的評価	診療報酬制度，介護報酬制度
7	看護政策	看護政策：看護政策の実際，政策への参画
8	看護管理の実際	病院看護管理者による看護管理の実際

教科書	上泉和子他著：:系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践〔1〕．医学書院．2012
参考書	井部俊子，中西睦子監：看護管理学習テキスト 1～８・別巻．日本看護協会出版会

授業科目名	地域看護管理学	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義終了後
科目の目的	公衆衛生行政における保健師の実践活動では、対象への援助行為が公的保健福祉サービスとして位置づけられ、各々の活動を目的に沿って合理的に実施するためには、管理機能が十分に発揮されることが重要である。この科目では、地域看護管理の意義と実際についての理解を深めることを目的とする。		
学習到達目標	地域看護管理の基本的な知識の理解を図る。また、保健所や市町村で行われている具体的な看護管理の場面を提示することをとおして、地域看護管理の展開方法についての理解を深める。		
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅱ、地域保健行政、社会福祉・地域サービス論		
成績評価方法・基準	定期試験 70 %, 平常点 30%		
準備学習の内容	公衆衛生行財政の在り方や公衆衛生の関連法規、保健師の役割や活動等についての理解を整理しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1	地域看護管理とは	地域看護管理の意義・目的 施設内の看護管理と地域看護管理 地域看護管理の基本となるもの
2 ～ 7	地域看護管理の諸相	地域ケアの質保証 組織運営・予算管理 業務管理 人事管理・人材育成 健康危機管理 情報管理
8	まとめ	まとめ

教科書	標準保健師講座１　地域看護学概論（医学書院）
参考書	最新　保健学講座５　地域看護管理論（メヂカルフレンド社） 看護系標準教科書　地域看護学Ⅱ〔活動の展開〕（オーム社）

授業科目名	災害看護論	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	授業の前後
科目の目的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。		
学習到達目標	1. 災害の定義及び災害看護の目的を説明できる。 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化を説明できる。 3. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置ができる。 4. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。 5. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。		
関連科目	臨床看護管理学、地域看護管理学、地域保健行政		
成績評価方法・基準	演習内容及びレポート 50% 試験　50%		
準備学習の内容			

回	講義題目	講義内容
1	災害と法制度	1) 災害とは 2) 災害看護の目的 3) 災害サイクルと災害対策 4) 災害による援助ニーズの経時的変化 5) 災害支援に関する法制度
2	災害による健康障害、災害発生時の応急救護	1) 災害の種類別健康障害 2) トリアージとは・タッキングの原則 3) 災害現場でのトリアージと応急救護法
3	災害救援活動 ―日本の災害救援の体制―	1) 医療チーム派遣体制：DMAT 2) 災害看護師派遣体制：災害支援ネットワーク（看護協会） 3) 民間災害ボランティア派遣 ・災害ボランティアとその役割 ・被災地における支援活動の特性 ・ボランティアとしての心構え
4	災害救援活動 ―国際救援活動―	1) 国際救援とその仕組み 2) 国際緊急援助隊とは 3) 国外の被災地における援助活動の特性
5	災害発生時の行動～病院・施設の対応	1) 災害被害の軽減対策（災害対応マニュアルと防災訓練） 2) 災害発生時の入院患者管理・避難誘導 3) 多死傷者受け入れのための準備 4) 被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受入れ

回	講　義　題　目	講　義　内　容
6	災害時の保健活動1	1）災害被災者の健康問題 2）避難センターにおける支援と保健活動 3）在宅の被災者に対する支援 4）仮設住宅生活者に対する支援 5）ハイリスクグループへの支援 6）ASD と PTSD の症状とその予防対策 7）惨事ストレスと心のケア
7	災害時の保健活動2	1）災害準備期の保健活動 2）災害時の情報管理、組織・運営管理、業務管理、予算管理、人事管理 3）救援者の健康管理 4）被災後のコミュニティーづくり 5）地域防災計画、健康危機管理マニュアル等計画の策定への参画
8	原子力災害について まとめ	1）放射線災害の基礎 2）被ばくによる身体への影響 3）原子力災害時の対応について 減災に向けて、あなたができることは何ですか？

教　科　書	「最新保健学講座５地域看護管理論」 平野かよ子編集（メヂカルフレンド社）
参　考　書	「災害看護」黒田裕子、酒井明子　監修（メディカ出版） 「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」矢嶋和江　編集（利根沼田印刷） 「阪神淡路大震災―その時看護はー」南　裕子　監修（日本看護協会出版会） 「ナースのためのトリアージハンドブック」山崎和枝　監修（医学書院） 「東日本震災レポートーその時どう動いたかー」日本看護協会出版会　監修（日本看護協会出版会）

授業科目名	国際看護論	単位認定者	辻村弘美
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位（7.5コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科目の目的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点における国際看護や国際協力などのあり方について考える。		
学習到達目標	1. 国際看護の概念や必要性が理解できる 2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる 4. 日本や諸外国で自分ができる国際看護活動とは何かを考えることができる		
関連科目	教養科目―英語Ⅰ・Ⅱ 専門基礎科目―公衆衛生学、疫学・保健統計 専門科目－災害看護論		
成績評価方法・基準	試験（60%）・授業への参加態度（40%）		
準備学習の内容	授業内にアナウンスしますが、日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい		

回	講義題目	講義内容
1	授業ガイダンス及び国際看護総論１	１．国際看護の概念 ２．国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで ３．日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力,技術協力,有償資金協力）と多国間援助 ４．国際協力に関わる機関、ＧＯ、ＮＧＯ、その他の援助機関の役割（ＪＩＣＡ、厚生労働省、外務省、WHO、ＵＮＩＣＥＦ、ＮＧＯなどについて） ５．最近の国際協力の動向について
2	国際看護総論２	１．国際看護の必要性 ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・ＯＤＡ大綱の基本理念と原則 ２．保健医療の現状への対策 ・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義
3	途上国における健康問題１	１．先進国と開発途上国について ２．貧困とは ３．栄養問題、環境問題
4	途上国における健康問題２	１．感染症コントロール（ポリオ・麻疹根絶活動、マラリア、下痢症、結核） ２．ＨＩＶ/ＡＩＤＳ ３．リプロダクティブヘルス/ライツ
5	国際看護活動の実際	１．青年海外協力隊活動について
6	国際保健医療活動の実際	１．ＪＩＣＡ専門家、ＮＧＯワーカー、国際緊急援助活動について
7 8	グルーバル社会と看護 まとめ、試験	１．在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など

教科書	「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院）
参考書	「国際保健医療協力入門」小早川隆敏編著（国際協力出版会） 「国際看護学」川野雅資，柳澤理子（日本放射線技師会出版会） 「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ（じほう）

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位認定者	真砂　涼子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	病院実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。		
学習到達目標	1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。		
関連科目	看護学入門、看護学概論、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。 3年次以降の教科目や実習の基盤となる。		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	1.看護援助技術の復習 2.看護過程の復習		

回	講義題目	講義内容
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者のもと、看護援助を実施する。
	学内合同カンファレンス	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。

教科書	基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項
参考書	なし

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	単位認定者	鈴木　珠水・酒井美絵子
対象学年	第　3　学年	学期	後期
単位数	各 3 単位（各 3 週間）	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。		
学習到達目標	1. 急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期にある患者の特徴が理解できる。 2. 急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. 手術療法・薬物療法（抗がん剤など）・放射線療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 4. 急性期・慢性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 5. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 6. 治療検査時の患者の援助ができる。 7. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。 8. 看護活動の記録および報告ができる。 9. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。		
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・臨床検査学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護学 ・疾病の成り立ち・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護学		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	成人看護学実習要項参照		

回	講義題目	講義内容
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明
	病棟実習	病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介）
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習要綱」参照

教科書	系統看護学講座　成人看護学　【2】－【15】（医学書院） 決定版　ビジュアル臨床看護技術　照林社
参考書	成人看護学実習ガイドⅠ急性期・周手術期，照林社 成人看護学実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期　照林社 治療薬マニュアル 2011　医学書院 看護データブック　医学書院

授業科目名	老年看護学実習	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	4単位（4週間）	必修・選択	必修

指導方法	実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。		
学習到達目標	1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。 2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。 3. 老年期にある人の特性や自立、安全に守るケア技術の実践方法を習得する。 4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。		
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	実習要項で指示された事前学習項目をレポートにまとめ、実習第１日目に提出		

回	講義題目	講義内容
		1. 実習場所 1）ほたか病院 2）高齢者施設 ベルジ吉岡たやの家 ベルジ高崎 2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載

教科書	老年看護学で使用したすべての教科書
参考書	

授業科目名	小児看護学実習	単位認定者	野田　智子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	成長発達の過程にある子どもとその家族の特徴を理解し、変化する社会の中で、子どもと家族がいきいきと生活できるように、それぞれの健康レベルに応じた支援を考える		
学習到達目標	1. 子どもの特性を理解し、成長発達に応じた関わりができる。 2. 子どもとその家族が、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けるのか学ぶことができる。 3. 子どもと家族の健康の保持増進、回復のために必要なケアプランを立案、既存の知識、技術を発展させて支援することができる。 4. 子どもの最善の利益を考えて支援を実践することできる。 5. 子どもが医療を受けるさまざまな場と小児看護の特徴、保健医療チームにおける看護職の役割について学ぶことができる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	実習要項にて提示		

回	講義題目	講義内容
		1．実習場所 1）群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟、第3病棟 NICU、GCU、PICU、産科病棟 2）前橋赤十字病院 5号（小児科）病棟 3）群馬県内保育園・保育所 2．実習内容・方法 詳細は実習要項にて提示する

教科書	1. 「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2011. 2. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2011. 3. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学［2］小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著（医学書院）2010.
参考書	必要時提示する

授業科目名	母性看護学実習	単位認定者	早川　有子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。		
学習到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。		
関連科目	教養科目群：生命科学　生命倫理　家族学　環境学　生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学　免疫・感染症学　社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学実習・地域看護学実習等）		
成績評価方法・基準	実習要項にて指示		
準備学習の内容	事前学習を十分にする。講義の復習をする。母子の看護過程の展開について理解する。学内演習した項目は自信がある。これらのことを準備・習得して実習に臨むこと。		

回	講義題目	講義内容
		実習期間：２週間 実習は、学内演習２日間、病棟実習（看護過程展開４日間）、選択実習（妊婦外来、不妊外来・妊婦・産婦・新生児の病棟、ヨガ教室４日間）からなる。実習開始日に病棟・外来のオリエンテーションを含む全体オリエンテーションを行い、最終日に全体カンファレンスを行なう。学生は１グループ５～６名のグループに分かれて実習する。 ＊ 詳細は実習要項に記載する。

教科書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル　早川有子他　著（医学書院） 母性看護学概論　母性看護学「1」　森恵美　著（医学書院） 母性看護学各論　母性看護学「2」　森恵美　著（医学書院）
参考書	

授業科目名	精神看護学実習	単位認定者	小林　信
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	精神障害を抱える対象を全人的に捉え、現在の生活上の問題に対してセルフケアを向上するための看護を実践する能力を養う。		
学習到達目標	1. 生育歴、生活歴、病歴などを統合し、現在の対象のありのままの存在を理解できる。 2. 対象の看護上の問題を把握し、セルフケア理論に基づいて看護計画を立案・実施・評価できる。		
関連科目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	過去に学習した関連科目を復習し、対象理解、看護援助の方法、関連法規などを把握しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
	臨地実習	実習単位　2単位（2週間） 火曜日～金曜日 8日間 実習場所　厩橋病院 実習時間　原則として9時～16時 実習方法　Ⅰ.オリエンテーション 1.病院の特殊性について 2.看護業務分担について 3.日課、週間予定表について 4.診療用具、看護用具、その他機械器具の保管場所 5.その他 Ⅱ.実習の進め方 1.受け持ち患者の看護 2.看護過程にそった看護の展開 3.カンファレンスの実施 Ⅲ.実習記録の提出 Ⅳ.実習評価

教科書	
参考書	

授業科目名	地域看護学実習	単位認定者	小林亜由美
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	3単位（3週間）	必修・選択	必修

指導方法	実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	地域社会の生活集団を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、看護専門職の役割を理解する。		
学習到達目標	1. 住民の健康に影響する要因と、住民の健康を守るために有効な地区活動の展開方法がわかる。 2. 地域における保健師の活動形態の特質がわかり、地域看護の基本的技術を実施できる。 3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための看護専門職の役割がわかる。		
関連科目	公衆衛生学、疫学・保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、地域看護学Ⅲ		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	関連科目の復習を十分行ってから臨んでください。		

回	講義題目	講義内容
		1. 実習場所 ・渋川・沼田・中之条保健福祉事務所、並びに 管内市町村保健センター ・サンデン株式会社赤城事業所 2. 実習時期　4－7月 3. 実習内容 実習施設における地域保健活動の実際と、そこに勤務する保健師の活動をとおして地域看護活動の展開方法と保健師の役割を学ぶ。 ※詳細は、実習要項において別途提示する。

教科書	
参考書	

授業科目名	在宅看護実習	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	臨地実習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	在宅療養者とその家族に対する総合的な理解を深め、在宅ケアにおける看護の役割と支援方法、援助技術、在宅支援システムの実際について学ぶ。		
学習到達目標	1. 在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2. 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とする支援方法が理解できる。 4. 訪問看護ステーションの機能・役割が理解できる。 5. 在宅ケアシステムの仕組みと活動の方法が理解できる。		
関連科目	在宅看護概論、在宅看護論ⅠⅡ、他　教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	在宅看護概論、在宅看護論ⅠⅡで学習した内容を復習しておくこと。		

回	講義題目	講義内容
	オリエンテーション	実習の目的、目標、方法、留意事項等に関する説明
	訪問看護ステーション実習	実習場所： ①ほたか訪問看護ステーション ②訪問看護ステーションホームナース ③群馬県看護協会訪問看護ステーション ④訪問看護ステーション富岡 ⑤訪問看護ステーション渋川 ⑥訪問看護ステーション高崎 ⑦訪問看護ステーションたんぽぽ ⑧訪問看護ステーションほほえみ 実習方法・内容： ※詳細は実習要項に記載する。
	実習のまとめ	実習をとおしての学びや反省を個人レポートにて報告するとともに、実習目標の到達状況を振り返り、今後の学習課題を明確にする。 また、在宅看護実習の実習体験を学生間で共有し、在宅ケアに関わる援助技術、在宅療養者を支えるケアシステムとそれに関わる専門職の役割について、実習指導者および教員を交えて学習を深める。 ※詳細は実習オリエンテーション時に説明する。

教科書	「在宅看護論―実践をことばに」杉本正子・眞舩択子（ヌーベルヒロカワ） 「系統看護学講座　統合分野　在宅看護論」秋山正子（医学書院）
参考書	「在宅看護･介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案」大野絢子（上武大学出版会） 「介護保険制度に関するパンフレット」 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）

授業科目名	総合実習	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	実習	オフィス・アワー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知
科目の目的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。		
学習到達目標	1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。 2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。 3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。 4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。		
関連科目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する		
成績評価方法・基準	実習要項にて提示		
準備学習の内容	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。		

回	講義題目	講義内容
		実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習(事後学習)とする。） 実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。 実習施設：1）国立大学法人　群馬大学医学部附属病院 2）独立行政法人　国立病院機構　西群馬病院 3）医療法人　日高会　日高病院 実習の進め方 1）1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。 (1)対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を実践する。 (2)他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。 2）チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。 (1)看護師同行実習(複数の患者を担当する場合の看護実践の学び) (2)リーダーナース同行実習 (3)看護管理者同行実習 (4)認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習 (5)外来見学実習 (6)退院調整部門実習 3）実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。 (1)学内での学習体験発表 (2)実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ

教科書	既習科目のテキスト
参考書	既習科目の参考書

授業科目名	看護研究概説	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習	オフィス・アワー	月･火･金曜日の昼休み（伊藤）
科目の目的	看護研究とは何か、看護研究の意義と目的、方法、プロセス、倫理的配慮、各専門領域における研究の特徴を学ぶ。また、自分の関心のある研究テーマについての文献検索、論文の収集、クリティークを行い、研究の実施に向けての最初のステップを学習する。		
学習到達目標	1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 研究の種類と特徴が理解できる。 3. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、必要な文献を収集できる。 5. 研究のプロセスと研究計画書の作成方法、倫理的配慮が理解できる。 6. 研究の実施に向けて、自分の研究テーマを探索できる。		
関連科目	既習科目すべて		
成績評価方法・基準	期末試験 50%、課題レポート 35%、平常点 15%		
準備学習の内容	1. 専門領域における研究の特徴と理解①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。 2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込みは授業時間以外の時間を使って学習を進める。		

回	講義題目	講義内容
1	看護研究の意義と目的	看護における研究の役割と目的、ＥＢＮ
2	研究の種類とデザイン	研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類
3	事例研究と質的研究	看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法
4	量的研究	量的研究の特徴と方法、記述統計の基本
5	研究における倫理	研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮
6	専門領域における研究の特徴と実際①	基礎看護学
7	専門領域における研究の特徴と実際②	成人看護学
8	専門領域における研究の特徴と実際③	老年看護学・精神看護学
9	専門領域における研究の特徴と実際④	母性看護学・小児看護学
10	専門領域における研究の特徴と実際⑤	地域看護学・在宅看護学
11	研究のプロセスと研究計画書の作成	テーマの設定、データ収集、分析方法、発表 研究計画書の内容と作成方法
12	文献検索①	データベースを用いた文献検索の方法（演習）
13	文献検索②	文献検索の実際（演習）
14	文献検索③	収集論文のクリティークと文献カードの作成
15	まとめ	自己の研究課題の焦点化

教科書	「看護研究こころえ帳」李節子著（医歯薬出版）
参考書	「看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方」数馬恵子編（日本看護協会出版会）

授業科目名	卒業研究	単位認定者	学科教員全員
対象学年	第4学年	学期	通年
単位数	4単位（60コマ）	必修・選択	必修

指導方法	演習	オフィス・アワー	――――――
科目の目的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義･演習･実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表･論文化する。		
学習到達目標	各講座指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。		
関連科目	既習の科目全てと関連する。		
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程および論文作成結果を総合して評価する。		
準備学習の内容	研究に取り組んでみたいテーマについて情報収集をしておくこと。		

回	講義題目	講義内容
1 ～ 60	オリエンテーション 文献検索 研究計画立案 実施 論文作成	各講座指導教員の指導により研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究 指導教員：真砂涼子、馬醫世志子、佐藤晶子 成人看護学に関する研究 指導教員：酒井美絵子、鈴木珠水、萩原英子、小池菜穂子 老年看護学に関する研究 指導教員：伊藤まゆみ、川久保悦子 母性看護学に関する研究 指導教員：早川有子、中島久美子 小児看護学に関する研究 指導教員：野田智子 精神看護学に関する研究 指導教員：小林信 在宅看護学に関する研究 指導教員：小笠原映子 地域看護学に関する研究 指導教員：矢島正栄、小林亜由美、廣田幸子

教科書	
参考書	